

ごあいさつ



このたびは、弊社の CELSIUS（セルシウス）670 をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます。

CELSIUS 670 は、高速な計算能力と表示能力を備えたワークステーションです。

本書は、CELSIUS 670 のハードウェアの取り扱い方法を説明しています。

あらかじめインストールされているソフトウェアの操作方法については、添付のマニュアル『ソフトウェアガイド』を参照してください。

本書をご覧になり、CELSIUS 670 を正しくお使いいただきますよう、お願いいたします。

2001 年 10 月

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。
電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

(社団法人日本電子工業振興協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示)

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本ワークステーションには、“外国為替及び外国貿易法”に基づく特定貨物が含まれています。従って、本ワークステーションを輸出する場合には、同法に基づく許可が必要とされる場合があります。

Microsoft、Windows、Windows NT、MS、MS-DOS は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および Pentium は、米国インテル社の登録商標です。

その他の各製品は、各社の商標、登録商標または著作物です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

Microsoft Corporation のガイドラインに従って画面写真を使用しています。

All Rights Reserved, Copyright© 富士通株式会社 2001

本書の読みかた



本書は、CELSIUS 670 の基本的な取り扱い方法を解説しています。本書で解説していない周辺装置の取り扱い方法については、各周辺装置に添付されている取扱説明書をご覧ください。

本書の構成

章	内容
第 1 章 はじめに	本ワークステーションの設置から各種ケーブルを接続するまでの方法、電源の入れかた / 切りかた、および媒体の取り扱い方法などを説明しています。 必ずお読みください。
第 2 章 内蔵オプションの取り付け	ハードディスクや拡張カードなどの内蔵オプションを本ワークステーションに取り付ける方法を説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 3 章 BIOS 設定	本ワークステーションのハードウェアの環境を設定する BIOS 設定 (CMOS Setup ユーティリティ) というプログラムについて説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 4 章 SCSI BIOS 設定	本ワークステーションの SCSI ハードウェアの環境を設定する SCSI BIOS 設定 (Fast!UTIL ユーティリティ) というプログラムについて説明しています。 必要に応じてお読みください。
第 5 章 困ったとき	本ワークステーションを使用していて思うように動かないとき、エラーメッセージが表示されたときにどうすればいいかを説明しています。 必要に応じてお読みください。
付録	本ワークステーションの各部の名称や本ワークステーションのお手入れのしかた、本体仕様、注意事項などの説明をしています。 ひととおりお読みください。

安全にお使いいただくために



本書には、本ワークステーションを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。

本ワークステーションをお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の冒頭の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本ワークステーションをお使いください。

また、本書は、本ワークステーションの使用中にいつでも参照できるよう大切に保管してください。

安全上のご注意



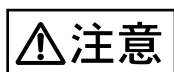
本ワークステーションおよびそのオプション装置を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

本書では、いろいろな絵表示をしています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

感電



で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容（左図の場合は感電注意）が示されています。

分解



で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が示されています。

プラグ



で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が示されています。

万一、異常が発生したとき



プラグ



- 万一、装置から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、その後必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が消えるのを確認して、担当営業員または担当保守員に修理をご依頼ください。お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。
- 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちに装置本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本ワークステーションを落としたり、カバーなどを破損した場合は、ワークステーション本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。その後、担当営業員または担当保守員にご連絡ください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

本体の取り扱いについて



プラグ



- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルやモジュラケーブルをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

分解



- 本ワークステーションをお客様自身で分解改造しないでください。感電・火災の原因となります。
- ワークステーション本体のカバーや差し込み口についているカバーは、オプション装置の取り付けなど、必要な場合を除いて取り外さないでください。内部の点検、修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

水 気



- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所で本ワークステーションを使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

禁 止



- ディスプレイに何も表示できないなど、故障している状態では本ワークステーションは使用しないでください。
故障の修理は担当営業員または担当保守員にご依頼ください。
そのまま使用すると感電・火災の原因となります。
- 開口部（通風孔など）からワークステーション本体内部に、金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 本ワークステーションの上または近くに「花びん・植木鉢・コップ」などの水が入った容器、金属物を置かないでください。
感電・火災の原因となります。
- 台所など湿気・ほこり・油煙の多い場所、通気性の悪い場所、火気のある場所に本ワークステーションを設置しないでください。
感電・火災の原因となります。
- 本ワークステーションに水をかけたり、濡らしたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 添付の電源ケーブル以外は使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
- カバーを外した状態で電源プラグをコンセントに差したり、電源を入れたりしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 表示された電源電圧以外の電圧で使用しないでください。
また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、感電・火災の原因となります。

禁止



- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだり、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。
故障の修理は、担当営業員または担当保守員にご依頼ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりすると電源ケーブルを傷め、火災・感電の原因となります。
- 電源ケーブルや電源プラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは使用しないでください。そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。

感電



- 電源ケーブルを抜いたあと、プラグに触らないでください。
感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

指示



- 電源プラグの金属部分、およびその周辺にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
そのまま使用すると、火災の原因となります。

アース



- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。
アース接続をしないと感電のおそれがあります。
また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。
火災の原因となります。

警告



- 取り外したカバー、キャップ、ネジなどの小さな部品は、小さなお子様が誤って飲み込むと窒息の原因となります。保護者の方は、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。

プラグ



- 本ワークステーションを移動する場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続ケーブルなどもはずしてください。
作業は足元に十分注意して行ってください。
電源ケーブルが傷つき、感電・火災の原因となったり、本ワークステーションが落下したり倒れたりしてけがの原因となることがあります。
- 本ワークステーションを長期間使用しないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
感電・火災の原因となることがあります。

注意

禁止



- 電源プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源ケーブルを引っ張ると、電源ケーブルの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となることがあります。
- 装置の開口部（通風孔など）をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。
- 直射日光の当たる場所や炎天下の車内など、高温になる場所に長時間放置しないでください。
高熱によってカバーなどが加熱・変形・溶解する原因となったり、ワークステーション本体内部が高温になり、火災の原因となることがあります。
- 使用中の装置は布などでおおったり、包んだりしないでください。
熱がこもり、火災の原因となることがあります。

⚠ 注意



- 電源ケーブルを束ねて使用しないでください。
発熱して、火災の原因となることがあります。
- 本ワークステーションの上に重いものを置かないでください。また、衝撃を与えないでください。
バランスが崩れて倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所に置かないでください。
倒れたり、落下したりしてけがの原因となることがあります。

指 示



- 電源ケーブルを接続するコンセントは、本ワークステーションのそばに設けてください。
火災の原因となることがあります。
- 電源プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
火災・故障の原因となることがあります。
- ディスプレイなど、重量のある装置を動かす場合は、必ず2人以上で行ってください。
けがの原因となることがあります。

指 示



- CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW をセットおよび取り出すときには、トレーに指などを入れないでください。
けがの原因となります。
- フロッピーディスク、DAT、MO をセットおよび取り出すときには、差し込み口に指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。
- レーザ光の光源部を直接見ないでください。
目を傷める原因となることがあります。

オプションの取り扱いについて



感電



- オプション装置の取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- オプション装置を接続する場合は装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。
- オプション装置を接続する場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- LAN コネクタには指などを入れないでください。
感電の原因となります。

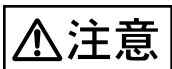
電池の取り扱いについて



警告



- 使用している電池を取り外した場合は、小さなお子様が電池を誤って飲むことがないように、小さなお子様の手の届かないところに置いてください。
万一、飲み込んだ場合は、ただちに医師と相談してください。



禁止



- 電池はショートさせたり、加熱したり、分解したり、火や水の中に入れてたりしないでください。
電池の破裂、液もれにより、けが・火災や周囲を汚す原因となることがあります。
- 使用済みの電池を廃棄する場合は、他のゴミと一緒に捨てないでください。
火中に投げると破裂のおそれがあります。

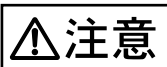
その他



指 示



- 梱包に使用しているポリ袋はお子様が口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。
窒息の原因となります。



指 示



- 本ワークステーションを無理な姿勢で長時間使い続けると、腰痛や腱鞘炎の原因となる場合があります。以下に示すような正しい姿勢で使用し、1時間に10分間以上休憩をとってください。
 - いすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
 - いすの高さを、足の裏全体がつく高さに調節する。
 - ひじは90度以上に伸ばして操作する。
- ディスプレイを長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」等の目の傷害の原因となる場合があります。1時間に10分間以上の休憩をとってください。また、なるべく画面を下向きに見る位置にする、意識的にまばたきをする、場合によっては目薬をさすなどしてください。
- ヘッドフォンを使用するときは、音量を上げすぎないように注意してください。耳を刺激するような大きな音を長時間続けて聴くと、聴力が低下するなど、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- ヘッドフォンをしたまま電源スイッチを入れたり切ったりしないでください。
刺激音により聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。
- 本ワークステーションは、他のゴミと一緒に捨てないでください。
この装置はリチウム電池を使用しており、火中に投げると破裂のおそれがあります。

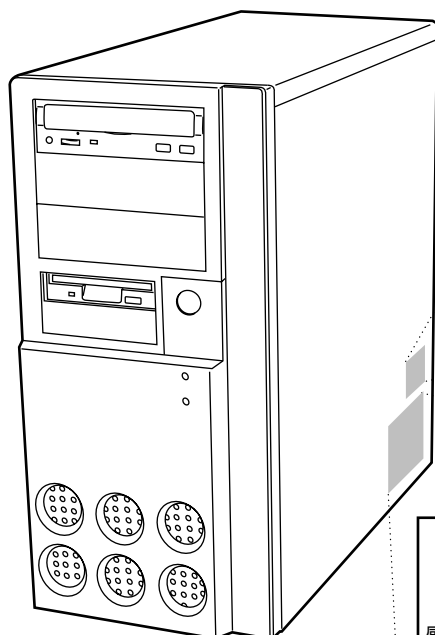
装置の廃棄

本ワークステーションを廃棄する場合、担当営業員または担当保守員に相談してください。本ワークステーションは産業廃棄物として処理する必要があります。

警告ラベル



本製品には、下図のように警告ラベルが貼ってあります。警告ラベルは、絶対にはがさないでください。また、汚れてメッセージなどが見えにくくなった場合は、担当営業員または担当保守員まで連絡してください。



<p>△ 警告 感 電</p> <p>内蔵オプションの取り付け等で分解する場合は、感電する恐れがありますので、本体及び接続している周辺装置の電源を切り、電源コードをコンセントから抜いてから行って下さい。</p>
<p>この装置は、クラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。 VCCI-A MADE IN JAPAN</p>
<p>FUJITSU LIMITED</p>

本書の表記について



キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：[Ctrl] キー、[Enter] キー、[→] キーなど

また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。

例：[Ctrl] + [F3] キー、[Shift] + [↑] キーなど

ボタンの表記

画面に表示されるボタンは、次のように [] で囲んで記述しています。

例：[OK]

コマンド入力

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

```
diskcopy a: a:
```

↑の箇所のように文字間隔をあけて表記している部分は、[Space] キー（キーボード手前中央にある何も書かれていない横長のキー）を1回押してください。

また、上記のようなコマンド入力を英小文字で表記していますが、英大文字で入力してもかまいません。

本文中の表記

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。



ポイント

ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。



ヘルプ

操操作を間違えてしまったときの元の状態への戻しかたや、困ったときの対処方法が書いてあります。

連続する操作の表記について

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「-」でつないで記述していません。

例：「スタート」をクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作



「スタート」 - 「プログラム」 - 「アクセサリ」をクリックします。

画面例について

本書に記載されている画面は一例です。お使いのワークステーションに表示される画面やファイル名などが異なる場合があります。ご了承ください。

イラストについて

本書に記載されているイラストは一例です。取り付けるオプションによっては、使用するワークステーションと異なる場合があります。ご了承ください。

製品の呼びかたについて

本書に記載されている製品名称を、次のように略して表記しています。

Windows NT

Microsoft® Windows NT® Workstation operating system Version 4.0 の略です。

Windows 2000

Microsoft® Windows® 2000 Professional operating system の略です。

本ワークステーションまたはワークステーション本体

CELSIUS 670 を指します。

目次

第 1 章 はじめに..... 21

1	各部の名称と働き..... 22
	ワークステーション本体前面..... 22
	ワークステーション本体背面（基本モデル）..... 24
	ワークステーション本体内部（基本モデル）..... 26
	キーボード（OADG キーボード（109 キー））..... 28
	マウス..... 28
2	設置..... 29
	設置する場所について..... 29
	設置例..... 30
	テレビ/ラジオなどの受信障害防止について..... 30
3	接続..... 32
	ディスプレイ/キーボード/マウス/LAN ケーブルの接続..... 33
	電源ケーブルの接続..... 34
4	電源を入れる..... 36
	電源を入れるときの注意事項..... 36
	電源の入れかた..... 36
5	電源を切る..... 38
	電源を切るときの注意事項..... 38
	電源の切りかた..... 38
6	リセットする..... 40
	リセットの方法..... 40
7	フロッピーディスクについて..... 42
	フロッピーディスクのセット/取り出し..... 42
8	CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について..... 44
	媒体のセット/取り出し..... 45
9	ハードディスクについて..... 47

第 2 章 内蔵オプションの取り付け. 49

1	内蔵オプションを取り付ける前に..... 50
	内蔵オプションとは..... 50
	取り扱い上の注意..... 51
2	カバーの取り外し/取り付け..... 52
	トップカバーの取り外し/取り付け..... 52
	サイドカバーの取り外し/取り付け..... 53

	フロントカバーの取り外し / 取り付け	55
3	メモリの取り外し / 取り付け	57
	メモリについて	58
	メモリボードの取り外し	59
	メモリボードの取り付け	60
	メモリ / C-RIMM の取り外し	60
	メモリ / C-RIMM の取り付け	61
4	CPU モジュールの取り付け	62
	プロセッサの取り付け	63
	マルチプロセッサカーネルへの変更	66
5	拡張カードの取り付け / 取り外し	68
	拡張カードの取り付け	69
	拡張カードの取り外し	70
6	各種ドライブの取り付け	71
	ディスクベイの取り付け / 取り外し	73
	ファイルベイへのドライブの取り付け / 取り外し	76
	ハードディスクドライブの内蔵ハードディスクベイへの取り付けと取り外し	79
	ハードディスクドライブのフロントディスクベイへの取り付け	80
	サイドディスクベイへのハードディスクドライブの取り付け	81

第 3 章 BIOS 設定..... 83

1	BIOS 設定とは	84
2	操作方法	85
	CMOS Setup ユーティリティの操作方法	85
3	CMOS Setup ユーティリティのメニューと項目の詳細 ...	88
	Standard CMOS Features メニュー	89
	Advanced Boot Options メニュー	93
	Advanced Chipset Features メニュー	97
	Integrated Peripherals メニュー	99
	Power Management Setup メニュー	103
	PnP/PCI Configurations メニュー	106
	Security Features メニュー	109
	CPU Smart Setting メニュー	111
	PC Health Status メニュー	113
	Load Fail-Safe Defaults	115
	Load Optimized Defaults	115
	Save & Exit Setup	115
	Exit Without Saving	115

第 4 章 SCSI BIOS 設定..... 117

1	SCSI BIOS 設定とは	118
2	操作方法	119
	Fast!UTIL ユーティリティの操作方法	119
3	Fast!UTIL ユーティリティのメニューと項目の詳細	121
	Configuration Settings メニュー	122
	Scan SCSI Bus メニュー	130

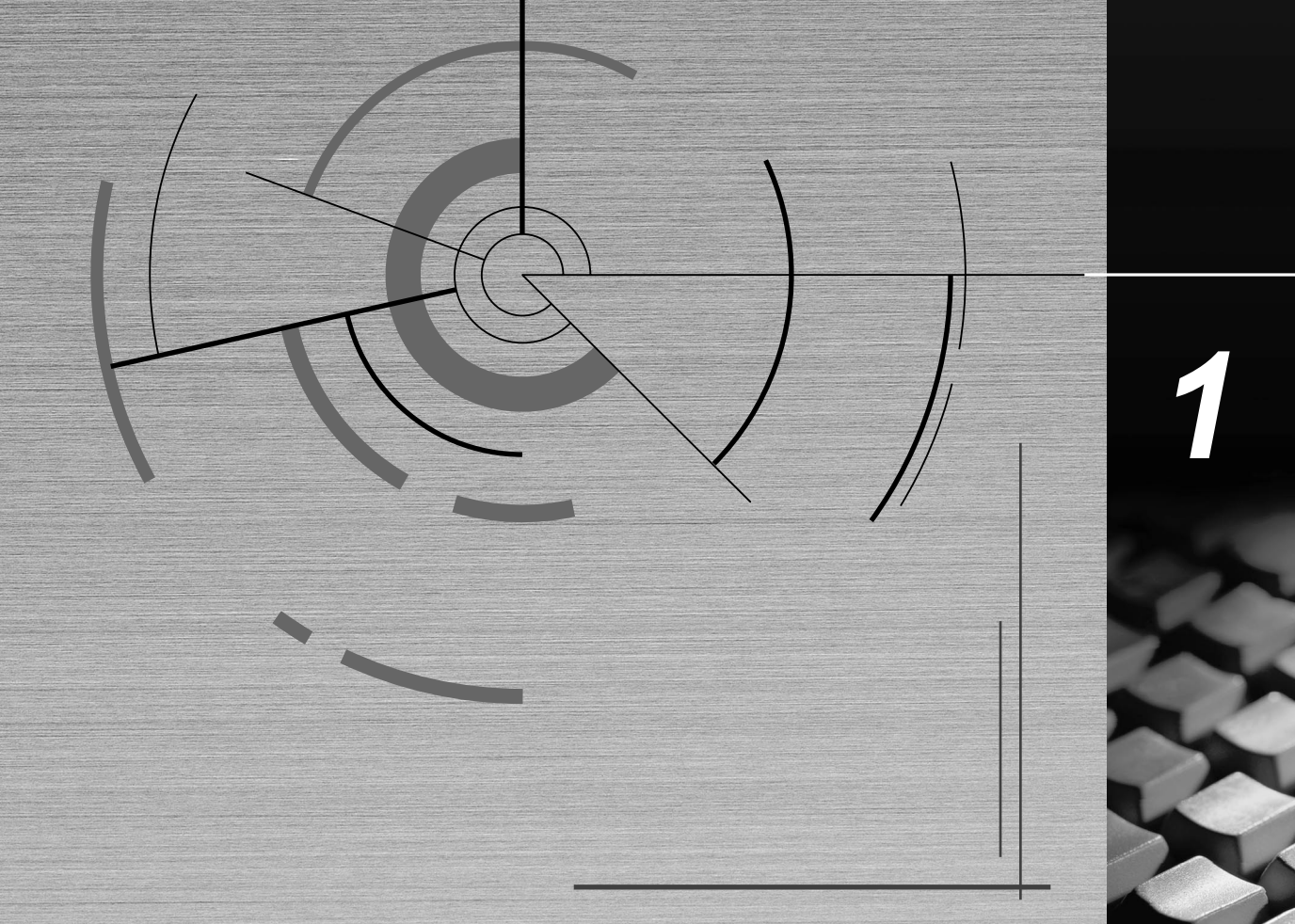
SCSI Disk Utility メニュー	130
Select Host Adapter メニュー	131
Exit Fast!UTIL メニュー	131

第 5 章 困ったときに..... 133

1 エラーメッセージ.....	134
ビープ音をともなうエラー	134
エラーメッセージ	135
2 こんなときには.....	138
3 どうしても解決できないときは.....	140
機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所	140
お問い合わせ前の確認シート	141

付録..... 143

1 システムボード.....	144
2 リソース一覧.....	146
3 ドライブの設定.....	147
4 コネクタ仕様.....	149
5 お手入れ.....	155
ワークステーション本体のお手入れ.....	155
キーボードのお手入れ	155
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のお手入れ	155
マウスのお手入れ	156
フロッピーディスクドライブのクリーニング	157
6 保守修理サービスのご案内.....	158
契約サービス.....	158
スポット保守サービス	158
7 保証について.....	159
8 その他の注意事項.....	160



1 はじめに

この章は、各部の名称と働きや電源の入れかた／切りかたなど、本ワークステーションをお使いになるうえで必要となる基本操作や基本事項を説明しています。

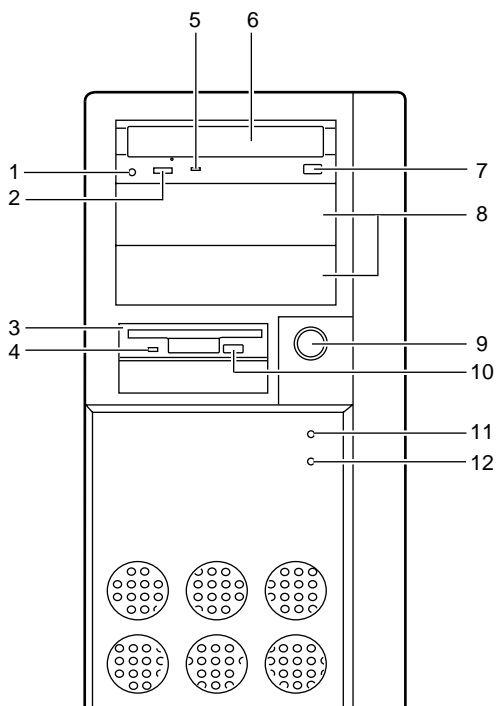
Contents

1 各部の名称と働き	22
2 設置	29
3 接続	32
4 電源を入れる	36
5 電源を切る	38
6 リセットする	40
7 フロッピーディスクについて	42
8 CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について	44
9 ハードディスクについて	47

1 各部の名称と働き

ここでは、ワークステーション本体、キーボードおよびマウスの各部の名称と働きを説明します。

ワークステーション本体前面

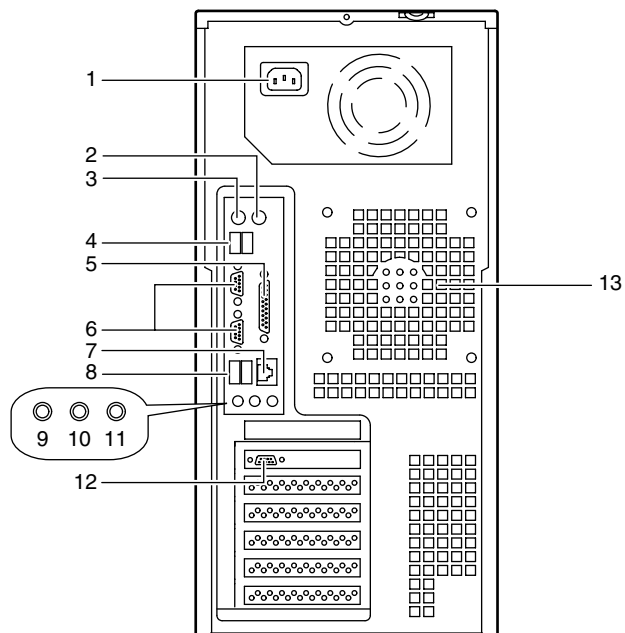







- 1 ヘッドホン端子（音楽 CD のみ）*
市販のヘッドホンで音楽 CD を聴くときに、ヘッドホンを接続します。
- 2 ヘッドホンボリューム（音楽 CD のみ）*
ヘッドホンを接続したときに、ヘッドホンの音量を調整します。
- 3 フロッピーディスクドライブ
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりします。
- 4 フロッピーディスクアクセス表示ランプ
フロッピーディスクにデータを書き込んだり、フロッピーディスクからデータを読み込んだりしているときに点灯します。

- 5 **BUSY ランプ***
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW からデータを読み込んでいるときや、音楽CDを再生しているときに点灯します。
- 6 **CD-ROM ドライブ**
DVD-ROM、CD-R/RW ドライブ（カスタムメイドオプション選択時）
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のデータやプログラムを読み出したり、音楽用CDを再生したりします。
- 7 **EJECT ボタン***
CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW をセットするときや、取り出すときに押します。
- 8 **ファイルベイ**
各種ドライブを取り付けます。
- 9 **電源スイッチ**
ワークステーション本体の電源を入れるときや、スタンバイにするときに押します。
- 10 **フロッピーディスク取り出しボタン**
フロッピーディスクを取り出すときに押します。フロッピーディスクアクセス表示ランプが点灯しているときは押さないでください。
- 11 **電源ランプ**
ワークステーション本体に電源が入っていないときは消灯しています。
ワークステーション本体に電源が入っているときは緑色に点灯します。
スタンバイモードのときは緑色に点滅します。
- 12 **ハードディスクアクセス表示ランプ**
ハードディスクにデータを書き込むときや、ハードディスクからデータを読み込むときに点灯します。

*搭載するドライブによって位置が異なります。

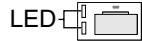
ワークステーション本体背面（基本モデル）



- 1 インレット**
ワークステーション本体の電源ケーブルを接続します。
- 2 マウスコネクタ ()**
マウスのケーブルを接続します。
- 3 キーボードコネクタ ()**
キーボードのケーブルを接続します。
- 4 USB コネクタ 1、2 ()**
USB 規格の周辺装置を接続します。
Windows NT ではサポートしていません。
- 5 パラレルコネクタ ()**
プリンタのケーブルを接続します。
- 6 シリアルコネクタ 1、2 ()**
モデムなど RS-232C 規格の装置のケーブルを接続します。

7 LAN コネクタ (LAN)

非シールド・ツイストペア (UTP) ケーブルを接続します。
100Mbps で使用するには、カテゴリ 5 のケーブルが必要です。



LED の意味は、以下のとおりです。

緑色 LED 点灯：100Mbps で LINK を確立中

緑色 LED 消灯：10Mbps で LINK を確立中

黄色 LED 点灯：LINK を確立

黄色 LED 点滅：データを転送中、または Magic Packet(TM) を受信

黄色 LED 消灯：LINK は非確立

8 USB コネクタ 3、4 ()

9 マイク端子 ()

マイクを接続します。

10 LINE OUT 端子 ()

アンプ付きスピーカーを接続します。

11 LINE IN 端子 ()

オーディオ機器の入力端子を接続します。

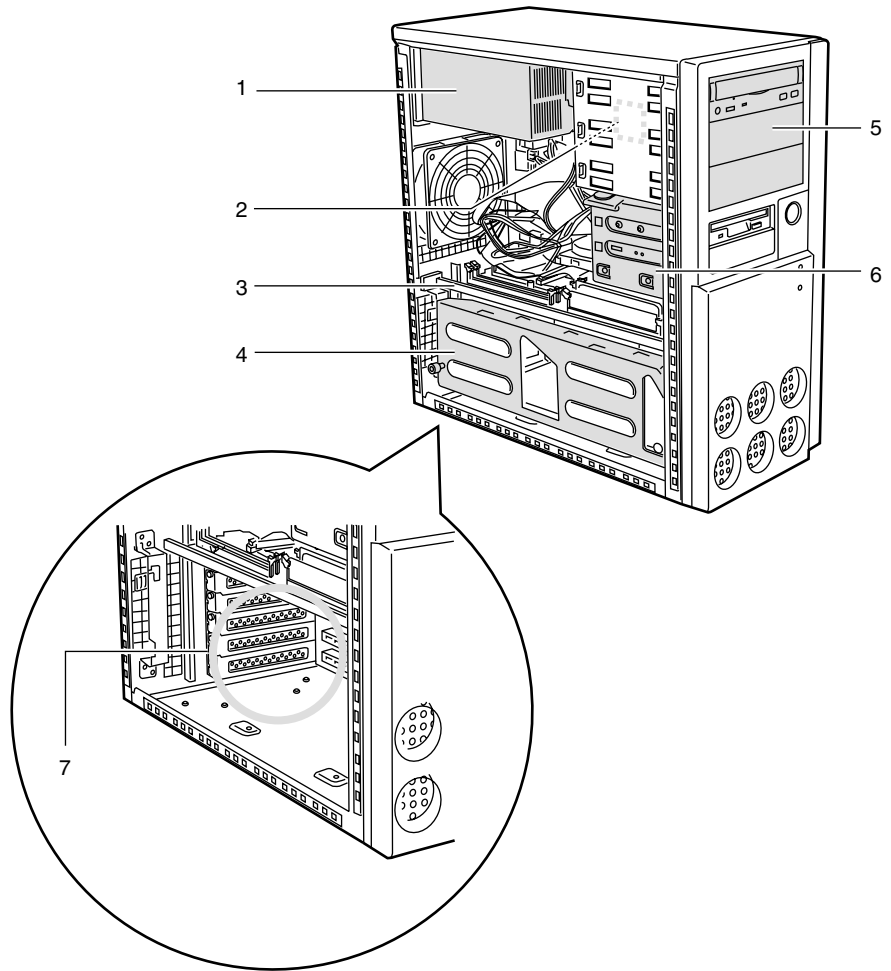
12 ディスプレイコネクタ ()

ディスプレイのケーブルを接続します。

13 通風孔 (冷却ファン)

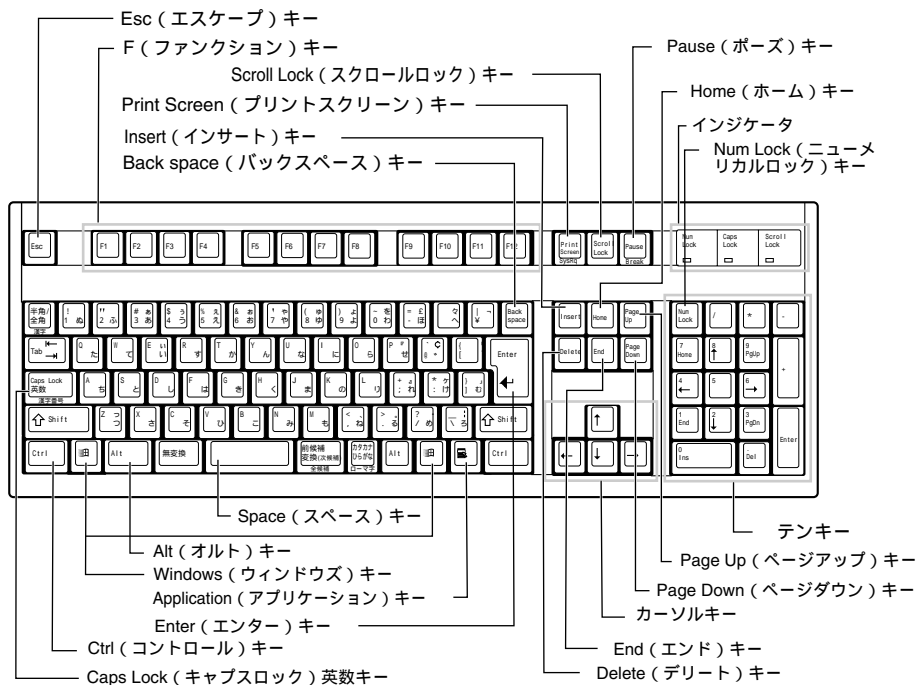
ワークステーション本体内部の熱を外部に逃すための開孔部です。

ワークステーション本体内部（基本モデル）

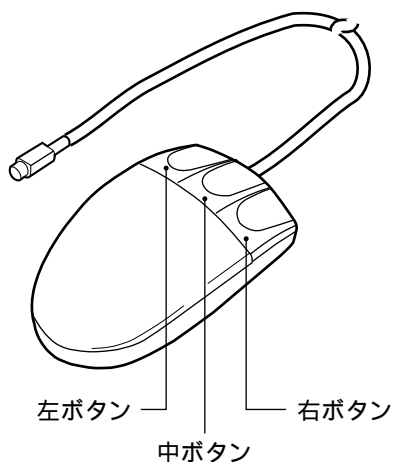


- 1 電源ユニット
- 2 CPU モジュール
ファイルベイ奥のシステムボード上にあります。
1CPU システムを2CPU システムにアップグレードすることができます。
- 3 メモリボード/メモリ
メモリを4組(8枚)まで搭載することができます。
- 4 サイドディスクベイ
内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。
右からサイドディスクベイ1、2と並んでいます。
- 5 ファイルベイ
各種ドライブを取り付けます。
下からファイルベイ1~3と並んでいます。
- 6 フロントディスクベイ
内蔵ハードディスクユニットを取り付けます。
下から内蔵ハードディスクベイ1、2と並んでいます。
- 7 拡張スロット/ビデオカード
拡張カードを取り付けます。

キーボード (OADG キーボード (109 キー))



マウス



2 設置

本ワークステーションの設置方法、ご使用になるうえでの注意事項について説明します。

設置する場所について

本ワークステーションは、水平で安定した場所に設置し、次の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温（35℃以上）になる場所
- 10℃未滿の低温になる場所
- 電源ケーブルに足がひっかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁界が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた場所など、不安定な場所



装置の開口部（通風孔や冷却ファン）をふさがないでください。通風孔や冷却ファンをふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

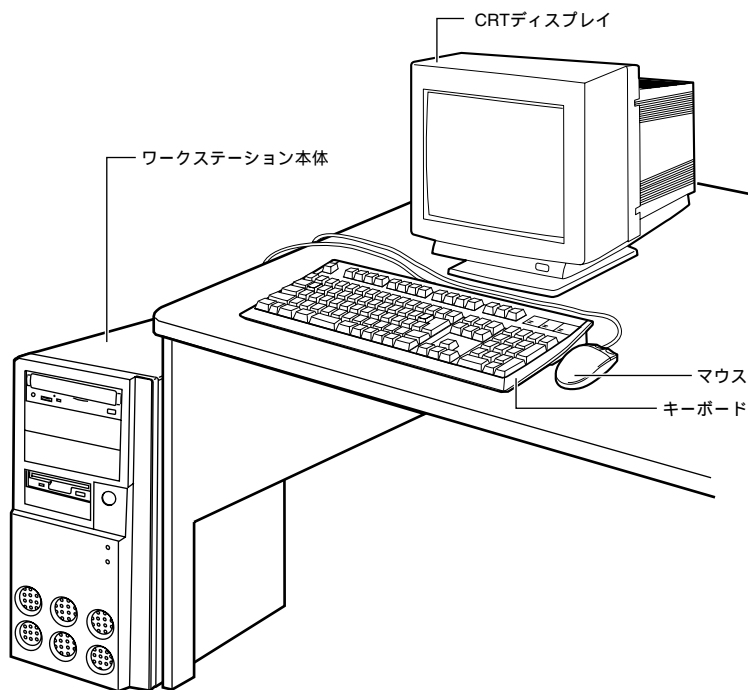


ポイント

ワークステーション本体は、壁などから 10cm 以上離して設置してください。

設置例

本ワークステーションは、次のように床上に設置してください。



テレビ/ラジオなどの受信障害防止について

本ワークステーションは、テレビやラジオなどの受信障害を防止する VCCI の基準に適合しています。しかし、設置場所によっては、本ワークステーションの近くにあるラジオやテレビなどに受信障害を与える場合があります。このような現象が生じてても、本ワークステーションの故障ではありません。

テレビやラジオなどの受信障害を防止するために、以下のことにご注意ください。

本ワークステーション側での注意点

- 本ワークステーションのカバーをはずした状態で、使用しないでください。
- 周辺装置と接続するケーブルは、指定のケーブルを使用し、それ以外のケーブルは使用しないでください。
- ケーブルを接続する場合は、コネクタが確実に固定されていることを確認してください。また、ネジなどはしっかり締めてください。
- 本ワークステーションの電源プラグは、テレビやラジオなどを接続しているコンセントとは別のコンセントに接続してください。

テレビやラジオ側での注意点

- テレビやラジオなどを、本ワークステーションから遠ざけて設置してください。
- テレビやラジオなどのアンテナの方向や位置を変更して、受信障害を生じない方向と位置を探してください。
- テレビやラジオなどのアンテナ線の配線ルートの本ワークステーションから遠ざけてください。
- アンテナ線は同軸ケーブルを使用してください。

本ワークステーションや周辺装置などが、テレビやラジオなどの受信に影響を与えているかどうかは、本ワークステーションや周辺装置など全体の電源を切ることで確認することができます。

テレビやラジオなどに受信障害が生じている場合は、上記の項目を再点検してください。

それでも改善されない場合は、担当営業員または担当保守員までご相談ください。

3 接続

ワークステーション本体にディスプレイ、キーボード、電源ケーブルなどを接続します。

警告

アース



- アース接続が必要な装置は、電源を入れる前に、必ずアース接続をしてください。
アース接続をしないと感電のおそれがあります。
また、アース線は、ガス管には絶対に接続しないでください。
火災の原因となります。

感電



- ディスプレイ、キーボード、マウス、LAN ケーブル、電源ケーブルの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている周辺装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- ディスプレイ、キーボード、マウスを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。

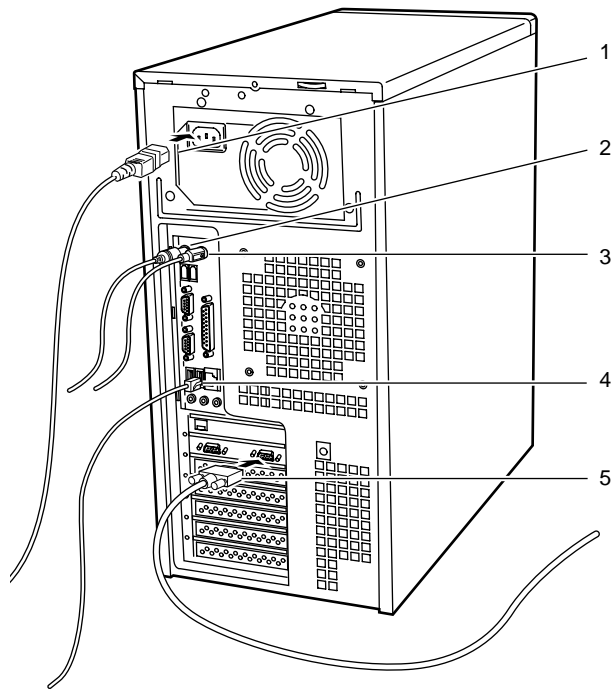
注意

指示



- ケーブルの接続は、間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、ワークステーション本体および周辺装置が故障する原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

ディスプレイ / キーボード / マウス / LAN ケーブルの接続



1

はじめに

(1) 電源ケーブルの接続

添付の電源ケーブルの片方のプラグをワークステーション本体のインレットに接続します。もう一方のプラグをコンセントに接続します。

(2) キーボードの接続

キーボードケーブルのコネクタをワークステーション本体のキーボードコネクタに接続します。

(3) マウスの接続

マウスケーブルのコネクタをワークステーション本体のマウスコネクタに接続します。

(4) LAN ケーブルの接続

ツイストペアケーブルの片方のコネクタをワークステーション本体の LAN コネクタに接続します。もう片方を HUB などのネットワークのコネクタに接続します。



ポイント

LAN ケーブルは、ツイストペアケーブルを使用します。添付されていませんので購入してください。

(5) ディスプレイケーブルの接続

ディスプレイケーブルのコネクタをワークステーション本体のディスプレイコネクタに接続して、ケーブルのコネクタのネジを締めます。

電源ケーブルの接続

ディスプレイなどの周辺装置を接続し終わったら、次の点に注意して本体の電源ケーブルを接続してください。

- 濡れた手でプラグを抜き差ししないでください。
- 電源ケーブルを傷つけたり、加工したりしないでください。
- 重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったり、加熱したりしないでください。
- 電源ケーブルやプラグが傷んだとき、コンセントの差し込み口がゆるいときは、使用しないでください。
- プラグの電極、およびコンセントの差し込み口にほこりが付着している場合は、かわいた布でよく拭いてください。
- 電源ケーブルは、家庭用電源（AC100V）に接続してください。



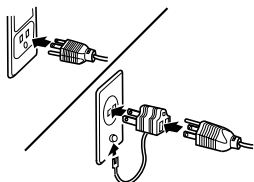
ポイント

電源ケーブルは、タコ足配線をしないでください。
また、キーボードケーブルやマウスケーブルとからまないようにしてください。

- 近くで雷が起きたときは、電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
- 2ピンのコンセントに接続する場合は、添付の変換プラグを使用してください。また、その場合、必ずアース線を接続してください。
- プラグを抜くときは電源ケーブルを引っ張らず、必ずプラグを持って抜いてください。
- プラグは、コンセントの奥まで確実に差し込んでください。
- 長期間使用しないときは、安全のため必ずプラグをコンセントから抜いてください。

ワークステーション本体の電源ケーブルの接続

- 1 電源ケーブル（本体用）のプラグをワークステーション本体背面のインレットに接続します。
- 2 電源ケーブルのもう一方のプラグを、電源コンセントに接続します。コンセントに接続する際にコンセントが2ピンの場合は、ワークステーション本体に添付の変換プラグを取付けてから、コンセントに接続します。アダプタプラグについているアース線を、アース端子にネジ止めします。



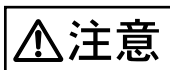
4 電源を入れる

ここでは、電源の入れかたについて説明します。

電源を入れるときの注意事項

- 電源ケーブルが正しく接続され、電源が投入されていることを確認してください。
- 画面に何も表示されない場合は、ディスプレイの電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- 画面が中央に表示されない場合は、ディスプレイ側で調整してください。
- 自己診断（POST）の結果、異常があればメッセージが表示されます。
- 電源を切ったあとすぐに電源を入れる場合、または電源を入れたあとすぐに電源を切る場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。

電源の入れかた



- 電源を入れた状態で持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。
- 冬季など装置が冷えきっているときは、温度を急激に上げないようにして装置が十分暖まってから電源を入れてください。
装置内部に水滴がつき、故障の原因となることがあります。

- 1 ディスプレイの電源スイッチを押してディスプレイの電源を入れます。ディスプレイの電源ランプが点灯します。
この時点では、画面には何も表示されません。

- 2 ワークステーション本体前面の電源スイッチを押します。
電源ランプが緑色に点灯したあとで、システムが起動します。



1

はじめに

 **ポイント**

- 本ワークステーションをご購入後、初めてワークステーションの電源を入れたあとは、オペレーティングシステムのセットアップを行います。
本ワークステーションに添付されているマニュアル『CELSIUS 670 ソフトウェアガイド』を参照して必ずセットアップを行ってください。
- 本ワークステーションをご購入後、内蔵オプションを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。

5 電源を切る

ここでは、電源の切りかたについて説明します。

電源を切るときの注意事項

- 電源を切る前にすべての作業を終了し、データを保存してください。
- 電源を切る前に、フロッピーディスクやハードディスクのアクセス表示ランプが消えていることを確認してください。点灯中に電源を切ると、作業中のデータが保存できなかつたり、フロッピーディスクやハードディスク内部のデータが破壊されたりする可能性があります。
- 電源を切ったあとすぐに電源を入れる場合は、10 秒間ほど間隔をあけてから行ってください。

電源の切りかた

Windows NT の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータをシャットダウンする」をクリックし、「はい」をクリックします。
電源が自動的に切れます。



ポイント

- 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されて、電源が自動的に切れない場合は、電源スイッチを押して電源を切ってください。
- 次のように電源を切ることもできます。
 - 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「シャットダウン後、電源を切る」をクリックして「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。



ポイント

- 次のように電源を切ることもできます。
- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「シャットダウン」を選択し、「OK」をクリックします。
電源が自動的に切れます。

6 リセットする

ソフトウェアをインストールした場合や、使用中のソフトウェアが何らかの理由で動かなくなった場合などに、リセットを行います。ここでは、リセットの方法について説明します。



ポイント

リセットすると、メモリ内のデータが消失します。リセットする前に、必要なデータは保存してください。

リセットの方法

Windows NT の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「コンピュータを再起動する」をクリックし、「はい」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。



ポイント

- 次のようにリセットすることもできます。
- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows NT のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「コンピュータのシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「シャットダウン後、再起動する」をクリックして「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。

Windows 2000 の場合

- 1 「スタート」ボタン 「シャットダウン」の順にクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
- 2 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。



ポイント

- 次のようにリセットすることもできます。
- 1 [Ctrl] + [Alt] + [Del] キーを押します。
「Windows のセキュリティ」ダイアログボックスが表示されます。
 - 2 「シャットダウン」をクリックします。
「Windows のシャットダウン」ダイアログボックスが表示されます。
 - 3 「再起動」を選択し、「OK」をクリックします。
本ワークステーションがリセットされます。

7 フロッピーディスクについて

本ワークステーションには、フロッピーディスクドライブが内蔵されています。フロッピーディスクは、プログラムや情報を保存するための媒体です。ここでは、フロッピーディスクの取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

取り扱い上の注意

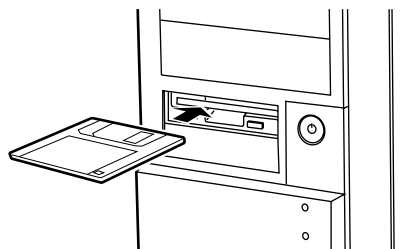
故障の原因となりますので、フロッピーディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- シャッタを開いて中のディスクにさわらないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 磁石などの磁気を帯びたものを近づけないでください。
- 固い床などに落とさないでください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。
- ラベルを何枚も重ねて貼らないでください（ドライブにつまる原因になります）。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。

フロッピーディスクのセット / 取り出し

フロッピーディスクのセット

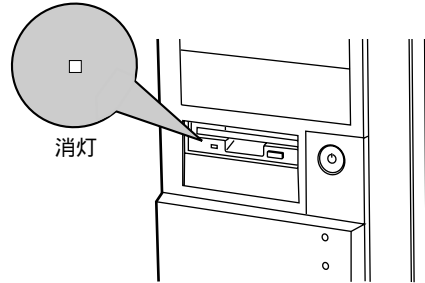
- 1 ラベルを上側に向け、シャッタのある側から、フロッピーディスクドライブに差し込みます。
「カシャッ」と音がして、フロッピーディスクがセットされます。



フロッピーディスクの取り出し

- 1 フロッピーディスクアクセス表示ランプが消えていることを確認します。

フロッピーディスク
アクセス表示ランプ



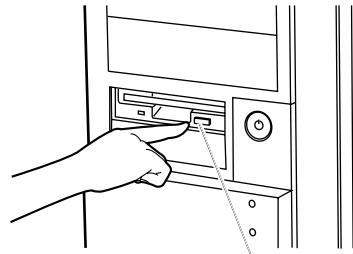
消灯



ポイント

フロッピーディスクアクセス表示ランプの点灯中に、フロッピーディスクを取り出さないでください。データが破壊される可能性があります。

- 2 フロッピーディスク取り出しボタンを押します。
フロッピーディスクが出てきます。



フロッピーディスク
取り出しボタン

8 CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW について

本ワークステーションには、CD-ROM ドライブ、またはカスタムメイドオプションで DVD-ROM、CD-R/RW ドライブが内蔵されています。

ここでは、CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW（以下、まとめて媒体とします）の取り扱いやセット方法、取り出し方法について説明します。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、媒体を使用するときは、次の点に注意してください。

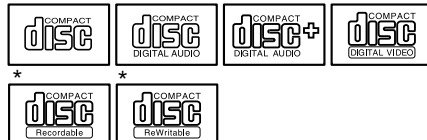
- レーベル面（印刷側）にボールペンや鉛筆などで字を書かないでください。また、ラベルなどは貼らないでください。
- 鏡面をさわったり、傷をつけたりしないでください。
- 曲げたり、重いものをのせたりしないでください。
- 汚れたり、水滴がついたりした場合は、かわいた柔らかい布で中央から外側にむかって拭いてください（クリーナーなどは使用しないでください）。
- コーヒーなどの液体がかからないようにしてください。
- 高温や低温の場所に保管しないでください。
- 湿気やほこりの多い場所に保管しないでください。

ドライブの注意事項

- 「媒体の注意事項」が守られていない媒体、ゆがんだ媒体、割れた媒体、ヒビの入った媒体はお使いにならないでください。故障の原因となります。
- 本ワークステーションは、円形の媒体のみお使いになれます。円形以外の異形媒体は、お使いにならないでください。故障の原因となることがあります。異形媒体をお使いになり故障した場合は、保証の対象外となります。
- 別売の CD-ROM クリーニングディスクを使ってクリーニングを行うと、レンズにゴミなどが付着することがあります。CD-ROM クリーニングディスクをお使いにならないでください。

ポイント

- CD-ROM は、音楽用 CD（コンパクトディスク）に、音の代わりにさまざまな情報（文字など）を保存したものです。ROM とは、「Read Only Memory」の略で、読み取り専用という意味です。本ワークステーションでは、CD-ROM の情報を読み取ることはできますが、書き込むことはできません（カスタムメイドオプションで CD-R/RW を選択した場合を除く）。
- 本ワークステーションでは、下図のマークがついた CD をご利用になれます。



* 印のついた CD は、CD-R/RW ドライブをお使いの場合に、別途アプリケーションを用意することで、書き込みが可能となります。

- カスタムメイドオプションで DVD-ROM ドライブを選択された場合は、下図のマークがついた DVD-ROM や DVD-VIDEO がご利用になれます。

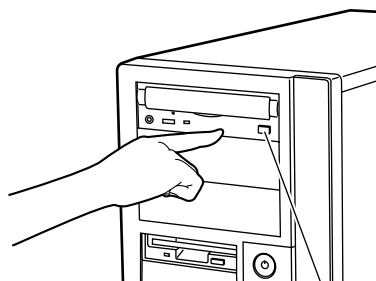


なお、DVD-VIDEO や VIDEO CD を再生するには、別途アプリケーションが必要です。

媒体のセット / 取り出し

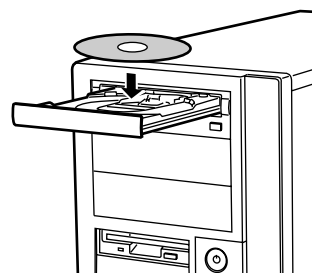
媒体のセット

- 1 EJECT ボタンを押します。媒体をセットするトレイが出てきます。

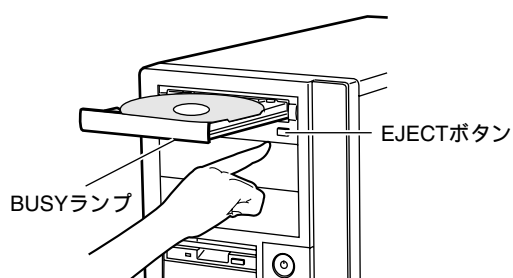


EJECT ボタン

- 2 媒体のレーベル面を上にして、トレーの中央に置きます。



- 3 EJECT ボタンを押します。
トレーがワークステーション本体に入り、媒体がセットされます。



ポイント

媒体をセットすると、BUSY ランプが点灯します。BUSY ランプが消えるのを確認してから、次の操作に進んでください。

媒体の取り出し

媒体の取り出しは、BUSY ランプが消えるのを確認してから、EJECT ボタンを押して行ってください。

9 ハードディスクについて

本ワークステーションには、ハードディスクが内蔵されています。ここでは、ハードディスクの取り扱いについて説明します。

ハードディスクとは

ハードディスクは、ソフトウェアや情報を保存する装置です。ハードディスクは磁気ディスクを1つの箱に収めた構造になっています。フロッピーディスクに比べ、多くの情報を保存でき、情報の読み書きが速いのが特長です。

取り扱い上の注意

故障の原因となりますので、ハードディスクを使用するときは、次の点に注意してください。

- ハードディスクの内部では、情報を記録するディスクが高速に回転しながら、情報の読み書きを行っています。非常にデリケートな装置ですので、電源が入ったままの状態の本ワークステーションを持ち運んだり、衝撃や振動を与えたりしないでください。
- 極端に温度変化が激しい場所での使用および保管は避けてください。
- 直射日光のあたる場所や発熱器具のそばには近づけないでください。
- 衝撃や振動の加わる場所での使用および保管は避けてください。
- 湿気やほこりの多い場所での使用および保管は避けてください。
- 磁石や強い磁界を発生する装置の近くでの使用および保管は避けてください。
- 分解したり、解体したりしないでください。
- 結露、または水滴がつかないようにしてください。



ポイント

- 誤った取り扱いをすると、ディスク内のデータが破壊される場合があります。重要なデータは必ずバックアップを取っておいてください。
- 同一タイプのハードディスクでも若干の容量差があります。ハードディスク単位ではなくファイル単位、または区画単位でのバックアップをお勧めします。

2 内蔵オプションの取り付け

この章は、本ワークステーションに内蔵オプションを取り付ける方法を説明しています。

Contents

1 内蔵オプションを取り付ける前に	50
2 カバーの取り外し / 取り付け	52
3 メモリの取り外し / 取り付け	57
4 CPU モジュールの取り付け	62
5 拡張カードの取り付け / 取り外し	68
6 各種ドライブの取り付け	71

1 内蔵オプションを取り付ける前に

ここでは、内蔵オプションの概要および内蔵オプションを取り付ける前の準備として、トップカバーとサイドカバーの取り外し方法について説明します。

内蔵オプションとは

本ワークステーションは、さまざまなオプションを接続・内蔵して機能を拡張できます。

オプションの中には、機種によってはお使いになれないものがあります。

ご購入の前に、「CELSIUS シリーズ システム構成図」をご覧ください。そのオプションが使えるかどうかを確認してください。

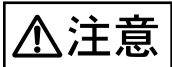


感電



オプション機器を接続する場合には、弊社推奨品以外の機器は接続しないでください。

感電・火災または故障の原因となります。



けが



- 内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジをはずさないでください。指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

故障



- ケーブル類の接続は本書をよく読み、接続時に間違いがないようにしてください。誤った接続状態でお使いになると、本ワークステーションおよび周辺機器が故障する原因となることがあります。

取り扱い上の注意

内蔵オプションを取り付けるときは、次の点に注意してください。

- 作業を行う前に、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 電源を切った直後は、ワークステーション内部の部品やユニットが熱くなっています。内蔵オプションの取り付けや取り外しを行う場合は、電源を切ったあと十分に時間をおき、作業を始めてください。
- 電源ユニット（ワークステーション内部の背面側にある箱の形状をした装置）は分解しないでください。
- 内部のケーブル類や装置を傷つけたり、加工したりしないでください。
- 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱いの際は、必ず本ワークステーションに付属のリストストラップを着用してください。
リストストラップは片方をシールをはがしてワークステーション本体背面に接着し、もう片方を手首に巻き付けて使用します。
- 基板表面や半田づけの部分に触れないように、金具の部分や、基板の縁を持つようにしてください。
- 弊社純正品以外のオプションの取り付けや分解を行った場合は、保証の対象外となります。



ポイント

本ワークステーションをご購入後、内蔵オプションを取り付ける場合は、必ずオペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。

2 カバーの取り外し／取り付け

内蔵オプションを取り付けるときは、トップカバーとサイドカバーを取り外して、内部が見える状態にします。必要に応じて、フロントカバーも取り外す必要があります。



ポイント

本ワークステーションは、セキュリティ機能の1つとしてカバーの開閉を監視しています。

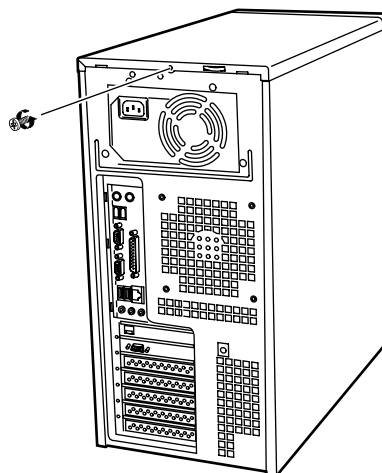
カバーの開閉後の電源投入時に「Warning!! Your Computer Chassis has been opened.」と表示されます。

警告メッセージを解除するには、BIOS 設定の「Security Features」-「Clear Chassis Intrusion」を「Yes」に変更してワークステーションを再起動してください。

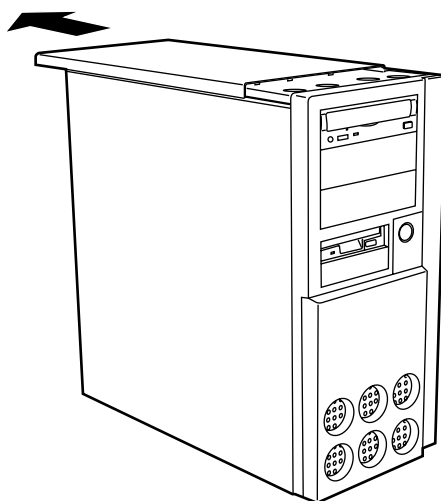
トップカバーの取り外し／取り付け

トップカバーの取り外し

- 1 ワークステーションの電源を切り、電源プラグを電源コンセントから抜きます。
- 2 ワークステーションに接続されているすべてのケーブルをコネクタから取り外します。
- 3 ワークステーション本体を作業しやすい場所に移動します。
- 4 ワークステーション本体背面上のネジをはずします。



- 5 トップカバーを後方にスライドさせ、ワークステーション本体からはずします。



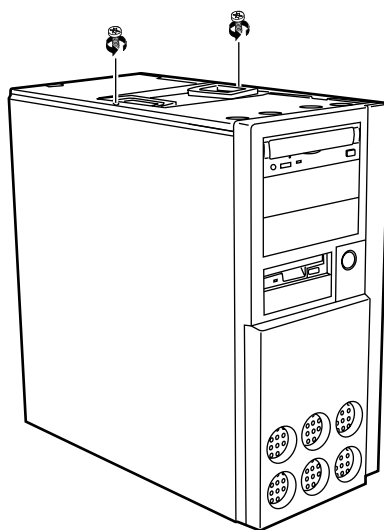
トップカバーの取り付け

取り付けは上記と逆の手順で行ってください。

サイドカバーの取り外し / 取り付け

サイドカバーの取り外し

- 1 トップカバーを取り外します。
- 2 サイドカバーのネジを取り外します。

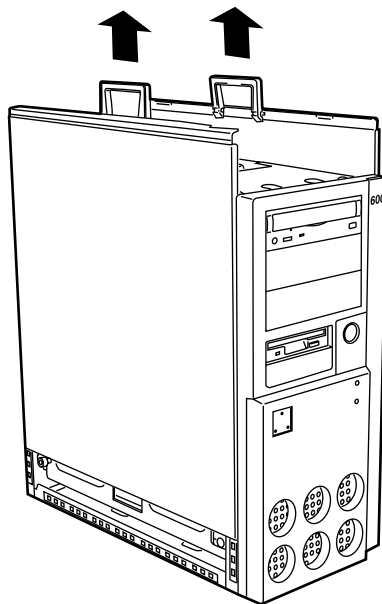




ポイント

取り外したネジはワークステーション本体の上に置かないでください。
本体の隙間から、ネジが本体内部に落下するおそれがあります。

- 3 サイドカバーのハンドルを持って、ワークステーション本体から引き上げます。



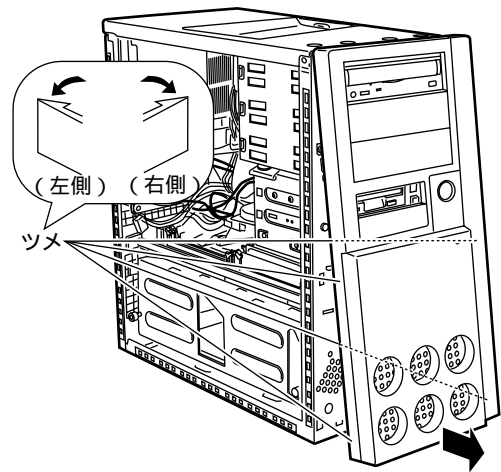
サイドカバーの取り付け

取り付けは上記と逆の手順で行ってください。

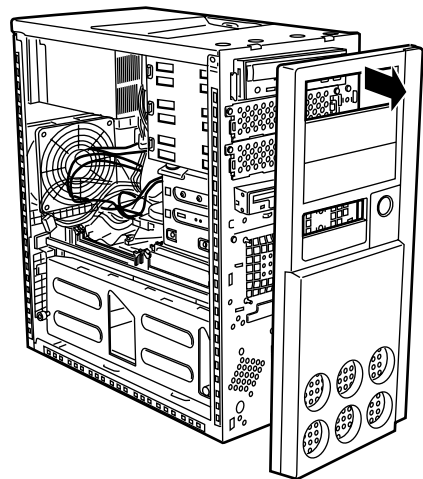
フロントカバーの取り外し / 取り付け

フロントカバーの取り外し

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 フロントカバー裏側の横のツメを矢印方向に押し、ワークステーション本体からはずします。



- 3 フロントカバー裏側の上のツメをはずし、ワークステーション本体からフロントカバーを外します。

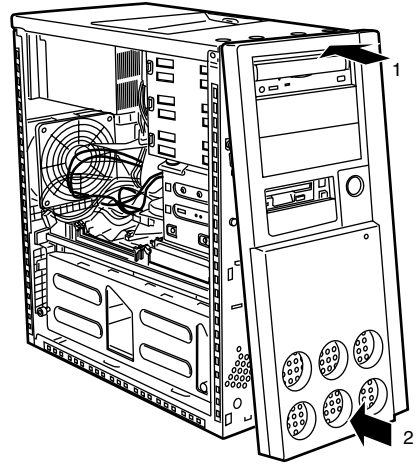


2

内蔵オプションの取り付け

フロントカバーの取り付け

- 1 フロントカバーの上のツメをワークステーション本体にはめ込みます。



- 2 フロントカバーを、横のツメがカチッとハマるまで押し込みます。
- 3 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

3 メモリの取り外し／取り付け

メモリの取り付けや取り外し方法を説明します。メモリを増やすと、一度に読み込めるデータの量が増え、ワークステーションの処理能力が上がります。



ポイント

- ご購入後、メモリを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- メモリは弊社純正品を使用してください。純正品以外のメモリを取り付けると、起動しません。
- 搭載可能なメモリは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。
- メモリボードを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーション本体を横向きにするとう作業しやすくなります。



感電



- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- メモリを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となります。
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。



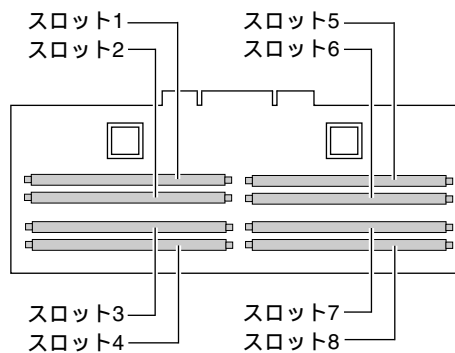
- メモリの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

メモリについて

本ワークステーションは、標準で 256MB のメモリを搭載しており、最大で 4GB のメモリを搭載できます。

メモリは、メモリボードのスロットに取り付けます。スロットには、128MB/256MB/512MB の RDRAM メモリモジュールを同一容量 2 枚 1 組で取り付けてください。

- メモリの取り付け組み合わせ
メモリを取り付けるときは、同一容量 2 枚一組とし、スロット 1 とスロット 7、スロット 3 とスロット 5、スロット 2 とスロット 8、スロット 4 とスロット 6 の組み合わせで取り付けます。
次の表と図でメモリの組み合わせとスロット位置を確認し、正しく取り付けてください。

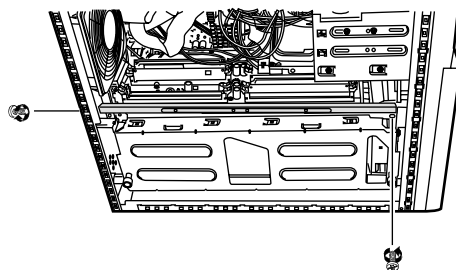


	スロット							
	1	2	3	4	5	6	7	8
基本の組み合わせ	メモリ (基本)	C-RIMM	C-RIMM	C-RIMM	C-RIMM	C-RIMM	メモリ (基本)	C-RIMM
基本 + 1組増設時	メモリ (基本)	C-RIMM	メモリ (増設 1組め)	C-RIMM	メモリ (増設 1組め)	C-RIMM	メモリ (基本)	C-RIMM
基本 + 2組増設時	メモリ (基本)	メモリ (増設 2組め)	メモリ (増設 1組め)	C-RIMM	メモリ (増設 1組め)	C-RIMM	メモリ (基本)	メモリ (増設 2組め)
基本 + 3組増設時	メモリ (基本)	メモリ (増設 2組め)	メモリ (増設 1組め)	メモリ (増設 3組め)	メモリ (増設 1組め)	メモリ (増設 3組め)	メモリ (基本)	メモリ (増設 2組め)

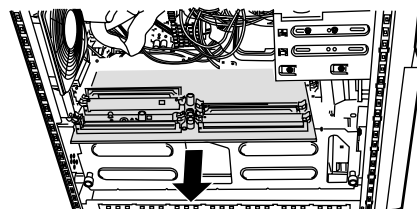
※：メモリを取り付けないスロットには、必ず C-RIMM（中継モジュール）を取り付けてください。何も取り付けられていないと本ワークステーションが正常に動作しません。

メモリボードの取り外し

- 1 大きめのマウスパッドなど、メモリボードの大きさに合った柔らかいパッドを用意します。
- 2 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 3 メモリボード固定金具を取り外します。



- 4 メモリボードを矢印の方向に引いて、ワークステーション本体から取り外します。



- 5 メモリボードを手順1で用意したパッドの上に置きます。



ポイント

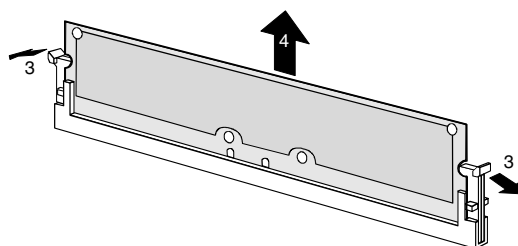
メモリの取り付け/取り外しを行うとき、メモリボードは必ず柔らかいパッドの上に置いて作業を行ってください。固い台の上で作業をすると、メモリボード上の部品が損傷したりメモリボードが曲がったりする場合があります。

メモリボードの取り付け

メモリボードの取り付けは、取り外しと逆の手順で行い、必ず固定金具でメモリボードを固定してください。

メモリ / C-RIMM の取り外し

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 メモリボードを取り外します。
- 3 メモリまたはC-RIMMを取り外すスロットの、左右のレバーを外側に開きます。



ポイント

レバーを勢いよく開くと、メモリが飛び出し、故障の原因となることがありますので、ご注意ください。

- 4 メモリまたはC-RIMMをスロットから取り外します。

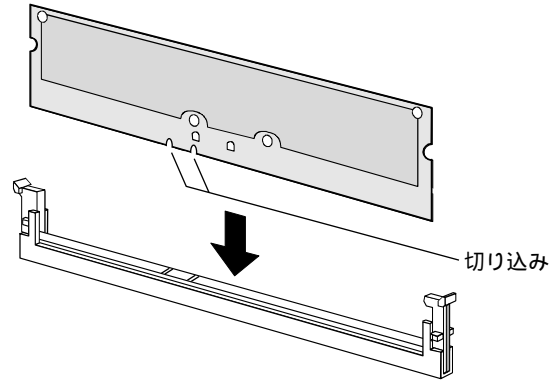


ポイント

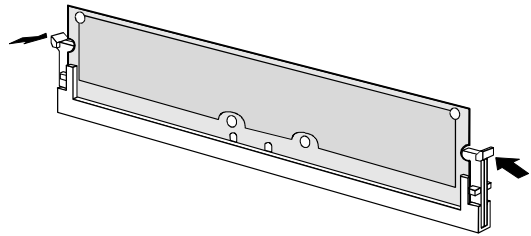
取り外したメモリまたはC-RIMMは大切に保管しておいてください。

メモリ / C-RIMM の取り付け

- 1 メモリまたは C-RIMM をスロットに垂直に差し込みます。
コンタクト部分の切り込みで向きを判断して、正しく差し込んでください。



- 2 左右のレバーでモジュールを固定します。



- 3 メモリボードを取り付けます。
- 4 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

2

内蔵オプションの取り付け

4 CPU モジュールの取り付け

CPU モジュールの取り付け方法を説明します。

1CPU システムの場合は、CPU モジュールを追加することにより 2CPU システムにアップグレードすることができます。



ポイント

- システムボードに CPU モジュールを追加するには、同じ種類（動作クロック周波数および FSB クロック周波数）のプロセッサしか使用できません。
- CPU モジュールは弊社純正品を使用してください。純正品以外の CPU モジュールを取り付けると、起動しません。
- 搭載可能な CPU モジュールは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。
- CPU モジュール取り付け後はオペレーティングシステムをマルチプロセッサカーネルへ変更する必要があります。変更方法については、CPU モジュールに添付の取扱説明書を参照してください。
- CPU モジュールを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーション本体を横置きにすると作業しやすくなります。



感電



- CPU モジュールを取り付ける場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。感電の原因となります。
- CPU モジュールを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。感電・火災または故障の原因となります。
- CPU モジュールを取り付ける場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。やけどの原因となります。



- CPU モジュールを取り付ける場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

プロセッサの取り付け

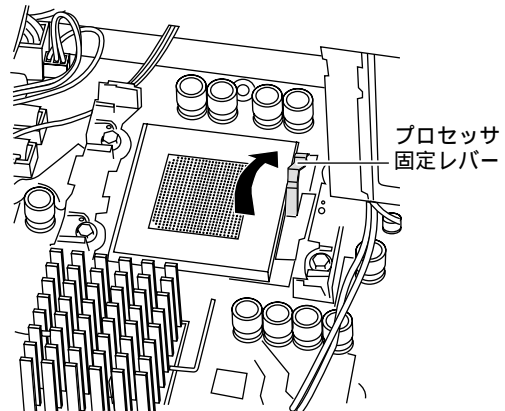
- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 フロントディスクベイを取り外します（「ディスクベイの取り付け / 取り外し」(73 ページ)を参照)。
- 3 メモリボードを取り外します（「メモリボードの取り外し」(59 ページ)を参照)。



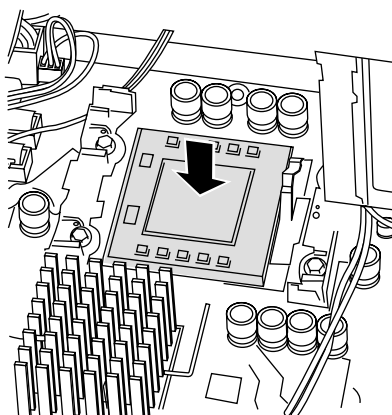
ポイント

- メモリボードは必ず取り外して作業を行ってください。
- 取り外したメモリボードは、平らな場所に置いてください。

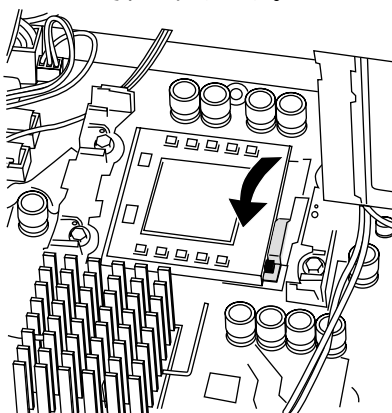
- 4 プロセッサ固定レバーを、止まるまで引き上げます。



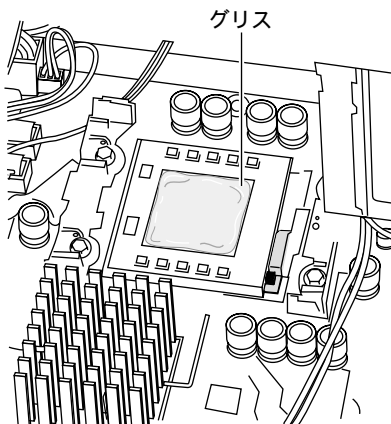
- 5 プロセッサを、ピンの位置を確認しながらソケットに垂直に差し込みます。



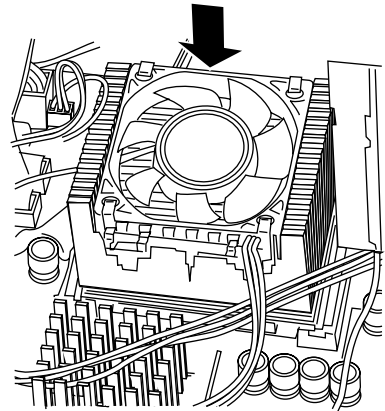
- 6 プロセッサ固定レバーを、カチッと止まるまで押し下げます。



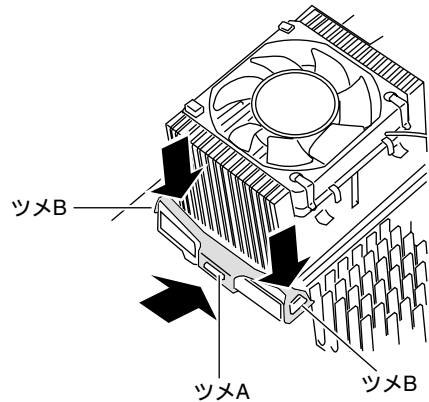
- 7 グリスをプロセッサ中央の金属板に薄く均等にぬってください。



- 8 ヒートシンクを取り付けます。



- 9 ヒートシンクの両脇を、それぞれ金具で固定します。
ツメ A に金具を合わせて掛け、金具の両側をチッと音がするまで強く押してツメ B に金具に掛けます。



- 10 システムボード上のファンコネクタにファン用ケーブル（プロセッサ 1 用）を接続します（付録の「システムボード」（144 ページ）を参照）。
- 11 メモリボードを取り付けます（「メモリボードの取り付け」（60 ページ）を参照）。
- 12 フロントディスクベイを取り付けます（「ディスクベイの取り付け / 取り外し」（73 ページ）を参照）。
- 13 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

マルチプロセッサカーネルへの変更

CPU モジュールを追加して 1CPU システムから 2CPU システムにアップグレードした場合、オペレーティングシステムをマルチプロセッサカーネルに変更する必要があります。

以下の方法で、マルチプロセッサカーネルに変更することができます。



ポイント

マルチプロセッサカーネルに変更する前に、必ずデータのバックアップを行ってください。

(1) Windows NT の場合

Windows NT の場合、再インストールする必要があるため、システムのリカバリを行う必要があります。リカバリ方法については、添付のマニュアル「ソフトウェアガイド Windows NT」の「リカバリとインストール」を参照してください。

(2) Windows 2000 の場合

Windows 2000 の場合、以下の手順でマルチプロセッサカーネルに変更することができます。

- 1 Windows をシャットダウンし、ワークステーション本体の電源を切つてから、拡張 CPU モジュールを増設します。
- 2 ワークステーション本体の電源を入れ、管理者権限を持ったユーザーアカウントでログオンします。
- 3 デスクトップの「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
「システムのプロパティ」ダイアログが表示されます。
- 4 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
「デバイスマネージャ」ダイアログが表示されます。
- 5 「コンピュータ」をダブルクリックします。
- 6 「ACPI ユニプロセッサ PC」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
- 7 「ドライバ」タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザード」ダイアログが表示されます。
- 8 [次へ]をクリックします。
- 9 「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」をクリックし、[次へ]をクリックします。

- 10 「このデバイスクラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、「製造元」の表から「(標準コンピュータ)」を選択します。



ポイント

間違ったモデルを選択すると、正常に動作せず、再インストールが必要になる場合がありますので、変更の際には十分注意してください。

- 11 「ACPI マルチプロセッサ PC 」をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 12 [次へ]をクリックします。
- 13 [完了]をクリックします。
- 14 すべてのウィンドウを閉じます。
- 15 再起動メッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。
本ワークステーションが再起動されます。

以上で、マルチプロセッサカーネルへの変更は完了です。

5 拡張カードの取り付け／取り外し

拡張カードを取り付ける方法を説明します。拡張カードは、本ワークステーションの機能を拡張します。



ポイント

- ご購入後、拡張カードを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- 拡張カードは弊社純正品を使用してください。他社製の拡張カードのなかには、本ワークステーションで動作しないものがあります。
- 搭載可能な拡張カードは、「CELSIUS シリーズ システム構成図」で確認してください。
- 拡張カードを取り付ける場合は、本ワークステーションが倒れないようにワークステーション本体を支えながら作業してください。ワークステーションを横向きにするると作業しやすくなります。



感電



- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- 拡張カードを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。

⚠ 注意



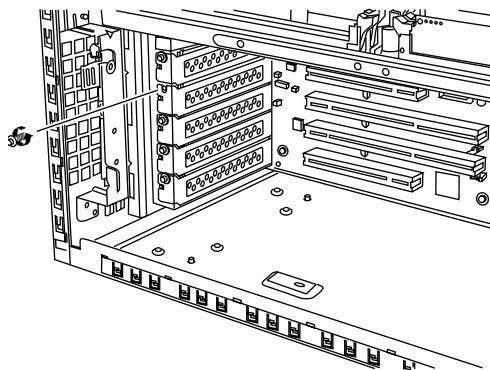
- 拡張カードの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

2

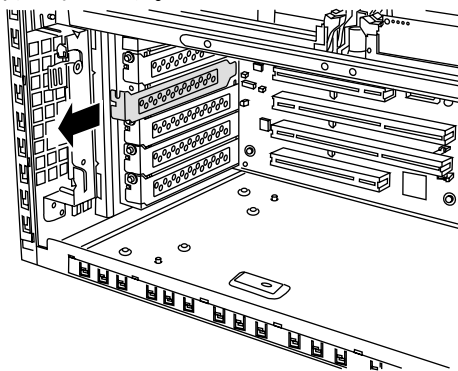
内蔵オプションの取り付け

拡張カードの取り付け

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 サイドディスクベイを取り外します（「ディスクベイの取り付け/取り外し」（73 ページ）を参照）。
- 3 スロットカバー固定ネジを取り外します。



- 4 スロットからスロットカバーを取り外します。



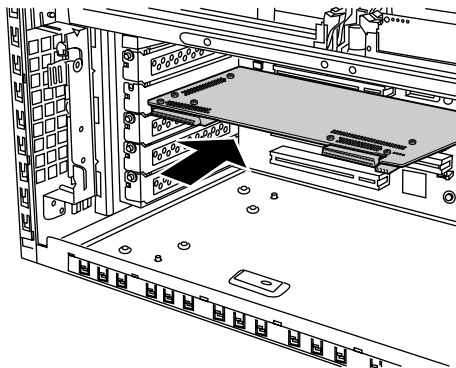


ポイント

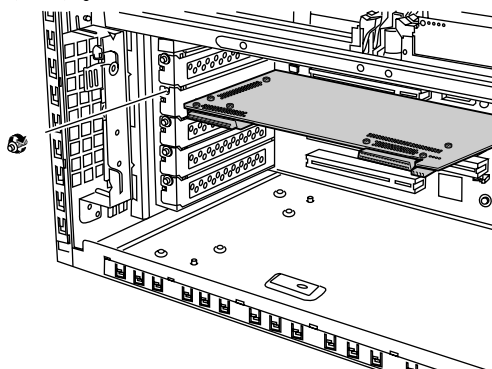
取り外したスロットカバーとスロットカバー固定ネジは大切に保管してください。

5 拡張カードをスロットに差し込みます。

拡張カードのカバーの先端がガイドにはまり込むようにします。



6 拡張カード固定ネジを取り付けます。



7 必要に応じて、ケーブルを拡張カードに接続します。

8 サイドディスクベイを取り付けます（「ディスクベイの取り付け/取り外し」（73ページ）を参照）。

9 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

10 本ワークステーションの電源を入れます。

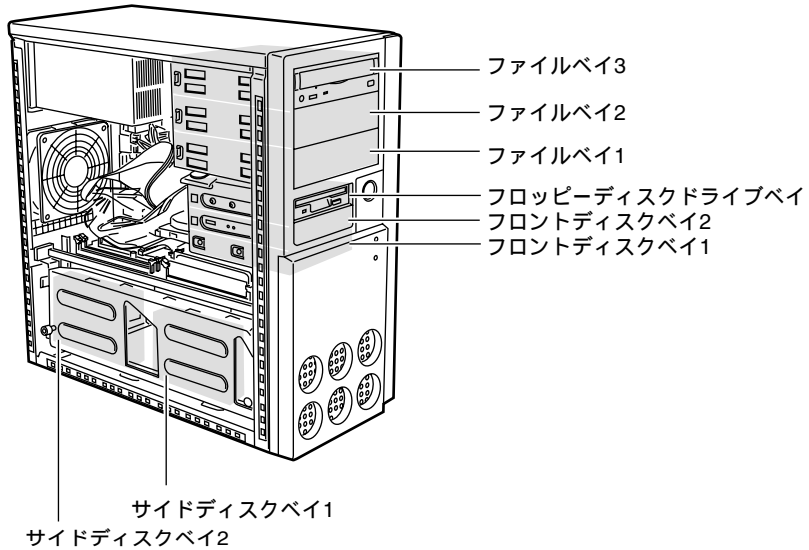
必要に応じて、拡張カードのデバイスドライバをインストールします。デバイスドライバをインストールして設定すると、拡張カードを使用できるようになります。

拡張カードの取り外し

取り外しは、取り付けと逆の手順で行ってください。

6 各種ドライブの取り付け

本ワークステーションには、ファイルベイを3個、内蔵ハードディスクベイを4個、フロッピーディスクドライブベイを1個、搭載しており、各種ドライブを取り付けることができます。



ポイント

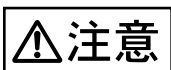
- 本ワークステーションをご購入後、各種ドライブを取り付ける場合は、オペレーティングシステムのセットアップを行ったあと、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに取り付けを行ってください。
- 搭載可能な各種ドライブは、「CELSIUS シリーズシステム構成図」で確認してください。



感電



- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。
- 各種ドライブを取り付ける場合は、弊社純正品をご使用ください。
感電・火災または故障の原因となることがあります。
- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、装置停止後、十分に待ってから作業を始めてください。
やけどの原因となります。



禁止



- 各種ドライブの取り付けや取り外しを行う場合は、指定された場所以外のネジははずさないでください。
指定された場所以外のネジをはずすと、けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。
- プリント板上の部品には、指定されている場所以外には手を触れないでください。
けがをするおそれがあります。また、故障の原因となることがあります。

IDE 規格の内蔵オプション（ハードディスクドライブを除く）について

IDE 規格の内蔵オプションはセカンダリ IDE 側に接続されているケーブルに接続します。

ドライブの設定は次のようにしてください。

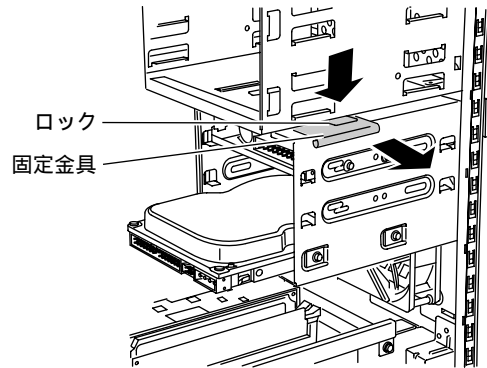
	マスタ	スレーブ
CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW を 1 台搭載の場合	CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW	-
CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW を 2 台搭載の場合	CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW	CD-ROM/DVD-ROM/ CD-R/RW

ディスクベイの取り付け / 取り外し

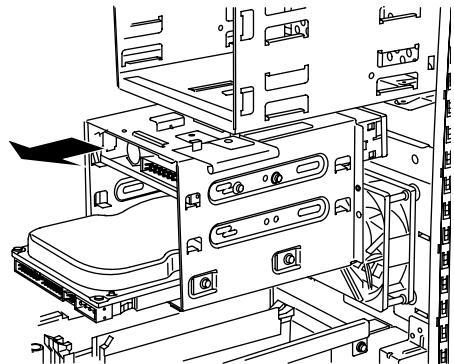
フロッピーディスクドライブの交換や内蔵ハードディスクドライブの取り付けの場合に、必要に応じてディスクベイを取り外して作業を行います。

フロントディスクベイの取り外し

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 信号ケーブルおよび電源コネクタを、ドライブからすべて取り外します。
- 3 ロックを押しながら、固定金具を矢印方向に引き出します。



- 4 フロントディスクベイを矢印方向に引いて、ワークステーション本体から取り外します。

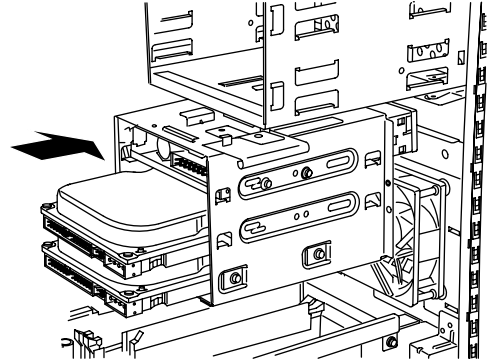


2

内蔵オプションの取り付け

フロントディスクベイの取り付け

- 1 フロントディスクベイのガイドレールをワークステーション本体の溝に合わせます。
- 2 フロントディスクベイをカチッとハマるまで、矢印方向に押し込みます。



- 3 ロックを、カチッとハマるまで押し込みます。
- 4 信号ケーブルおよび電源コネクタを、ドライブに接続します。

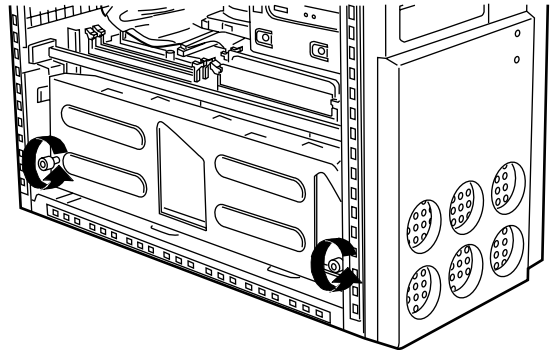


ポイント

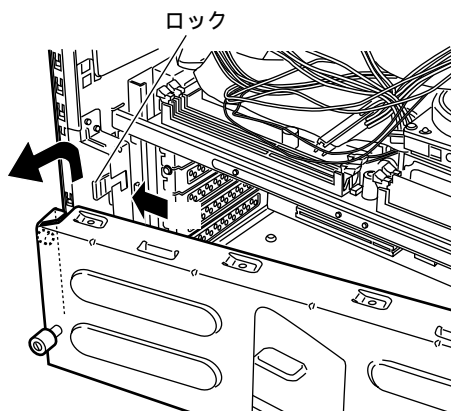
必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

サイドディスクベイの取り外し

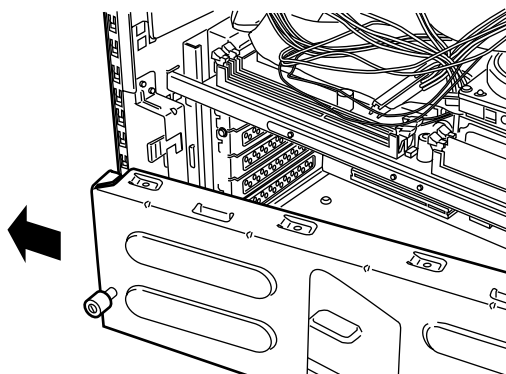
- 1 サイドディスクベイの2ヶ所のネジをゆるめます。



- 2 ロックを矢印方向 に押しながら、サイドディスクベイを矢印方向に引き出します。

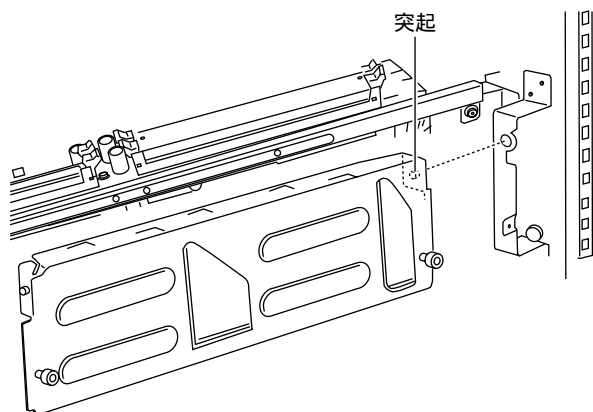


- 3 サイドディスクベイを矢印方向に引いて、ワークステーション本体から取り外します。

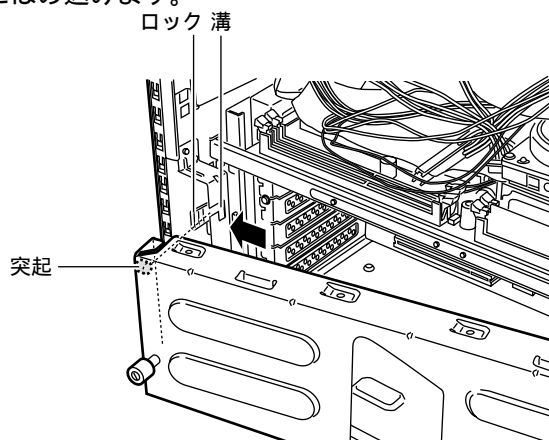


サイドディスクベイの取り付け

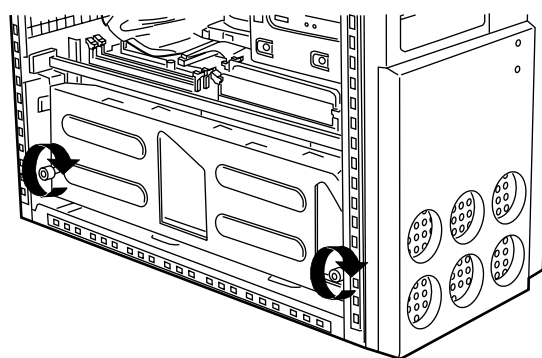
- 1 サイドディスクベイの突起をワークステーション本体の穴にはめ込みます。



- 2 ロックを矢印方向に押しながら、サイドディスクベイの突起をワークステーション本体の溝にはめ込みます。



- 3 ロックを戻します。
- 4 サイドディスクベイの2ヶ所のネジをしめます。



ファイルベイへのドライブの取り付け / 取り外し

ファイルベイへのドライブの取り付け

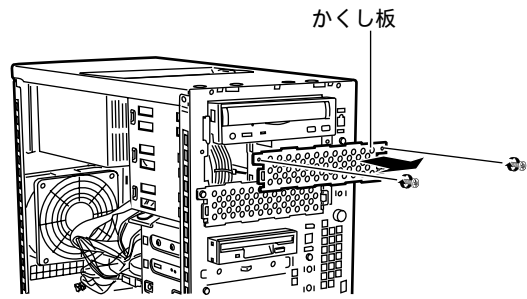


ポイント

本ワークステーションでは、Narrow SCSI コネクタをサポートしていません。
内蔵 DAT ユニット、光磁気ディスクユニットなど Narrow SCSI 機器を取り付ける場合は、内蔵 SCSI ケーブル（オプション、MO/DAT 用）を使用してください。

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 フロントカバーを取り外します。

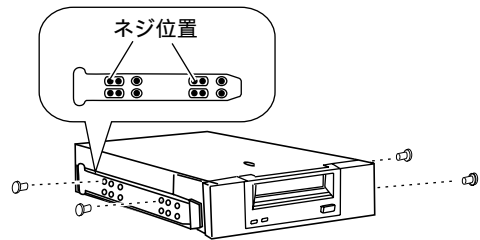
- 3 ファイルベイの内側のかくし板を取り外します。



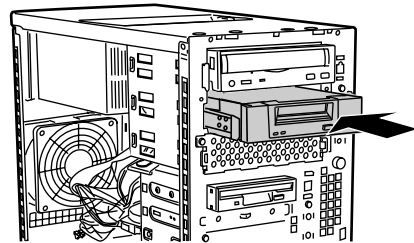
ポイント

取り外したかくし板は大切に保管してください。

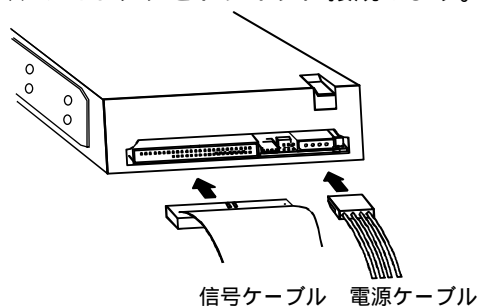
- 4 ドライブの設定を行います。
設定方法は、各ドライブに添付されているマニュアル、または付録の「3 ドライブの設定」(→ 147 ページ)を参照してください。
- 5 ドライブにガイドレールを取り付けます。



- 6 ドライブを搭載するベイに取り付け、カチッとハマるまで押し込みます。



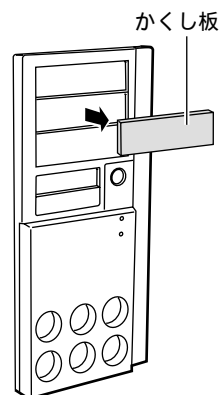
7 信号ケーブルおよび電源ケーブルのコネクタをドライブに接続します。



ポイント

電源ケーブルは正しく接続してください。
間違った接続を行うと、故障の原因となります。

8 フロントカバーのかくし板を取り外します。



9 フロントカバーを取り付けます。

10 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。



ポイント

必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

ファイルベイからのドライブの取り外し

取り外しは取り付けと逆の手順で行ってください。

ハードディスクドライブの内蔵ハードディスクベイへの取り付けと取り外し

ハードディスクドライブの搭載組合せについて

基本モデルでは、IDE ハードディスクドライブがフロントベイ 1 に搭載されています。ハードディスクドライブを増設する場合は、以下の組み合わせで搭載してください。

	基本モデル	内蔵ハードディスク交換 / 追加機構選択時および単純増設実施時			
	IDE-HDD1 台	IDE-HDD2 台	IDE-HDD1 台 SCSI-HDD2 台	IDE-HDD1 台 SCSI-HDD3 台	SCSI-HDD4 台
フロントディスクベイ -2	IDE-HDD1 (基本)	IDE-HDD1 (基本)	IDE-HDD1 (基本)	IDE-HDD1 (基本)	SCSI-HDD4
フロントディスクベイ -1	-	IDE-HDD2	-	SCSI-HDD3	SCSI-HDD1 (基本)
サイドディスクベイ -1	-	-	SCSI-HDD1	SCSI-HDD1	SCSI-HDD2
サイドディスクベイ -2	-	-	SCSI-HDD2	SCSI-HDD2	SCSI-HDD3

IDE ハードディスクについて

- OS を起動させるハードディスクは、必ずプライマリ IDE コネクタにマスターとして接続してください。スレーブとして接続したり、セカンダリ IDE コネクタに接続したりすると、OS が起動できない場合があります。
- ワークステーション本体に接続されている IDE ケーブルはプライマリ IDE に接続するケーブルとセカンダリ IDE に接続するケーブルとで異なります。
- IDE ハードディスクを接続する場合は、Ultra DMA/100 に対応しているプライマリ IDE 用のケーブルに接続してください。

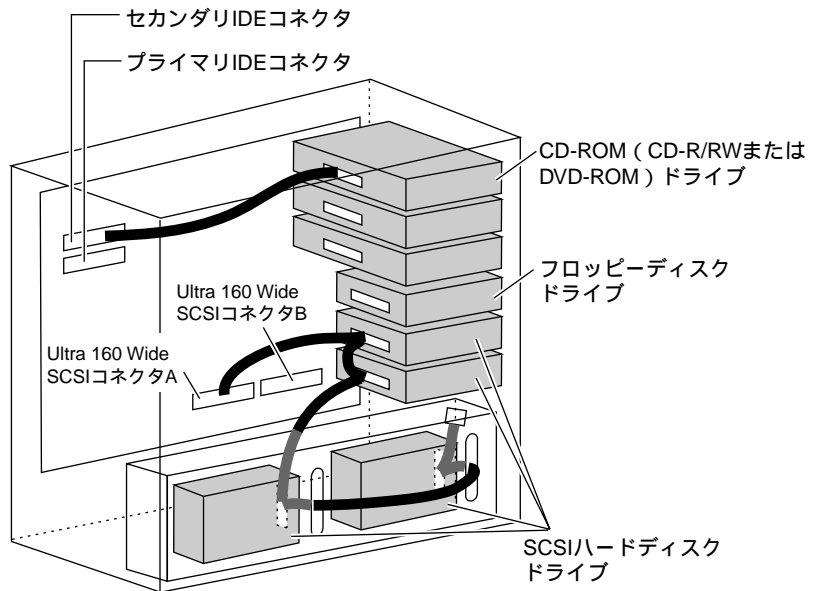
SCSI ハードディスクについて

- OS を起動させるハードディスクは、必ず SCSI-ID を 0 番に設定してください。
- SCSI-ID の 0 ~ 15 番は重ならないように設定してください。

サイドディスクベイへの SCSI ハードディスクドライブの取り付けについて

- 信号ケーブルはサイドディスクベイの穴から出し入れしながら、以下のように接続してください。

[接続例：SCSIハードディスクドライブを4台接続する場合]

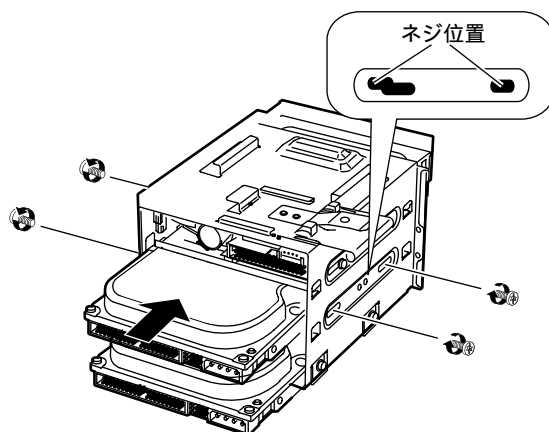


- 電源ケーブルをサイドディスクベイの SCSI ハードディスクドライブに接続するときは、添付の電源ケーブルのうち長い方を接続してください。

ハードディスクドライブのフロントディスクベイへの取り付け

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 フロントディスクベイを取り外します。
- 3 ハードディスクドライブの設定（マスタ/スレーブの設定など）を行います。

- 4 ハードディスクドライブをフロントディスクベイに取り付け、ネジで固定します。



- 5 信号ケーブルおよび電源ケーブルのコネクタをドライブに接続します。
- 6 フロントディスクベイを取り付けます。
- 7 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。

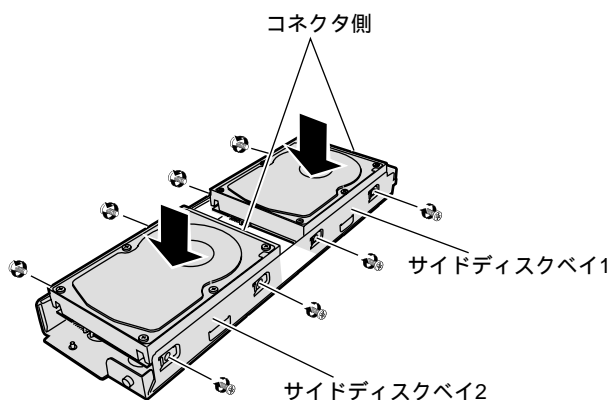


ポイント

必要に応じて BIOS 設定でドライブの項目を設定します。

サイドディスクベイへのハードディスクドライブの取り付け

- 1 トップカバーとサイドカバーを取り外します。
- 2 サイドディスクベイを取り外します。
- 3 ハードディスクドライブの設定（SCSI ID の設定など）を行います。
- 4 サイドディスクベイにハードディスクドライブを取り付け、ネジで固定します。



- 5 信号ケーブルおよび電源ケーブルのコネクタをドライブに接続します。
- 6 サイドディスクベイを取り付けます。
- 7 サイドカバーとトップカバーを取り付けます。



ポイント

サイドディスクベイには、SCSI ハードディスクのみ取り付けることができます (IDE ハードディスクを取り付けることはできません)。

3 BIOS 設定

この章では、ハードウェアの環境を設定するために行う、BIOS（システム BIOS）設定について説明しています。

Contents

1 BIOS 設定とは.....	84
2 操作方法	85
3 CMOS Setup ユーティリティのメニューと項目の詳細	88

1 BIOS 設定とは

システム BIOS 設定は、「CMOS Setup ユーティリティ」と呼ばれるプログラムを使用します。

CMOS Setup ユーティリティはメモリやハードディスク、フロッピーディスクドライブなどのハードウェアの環境を設定するためのプログラムです。

本ワークステーションでは、必要最小限のことはお買い求めのときにすでに設定されています。次の場合のみ設定を行う必要があります。

- ハードディスクドライブなどの記憶装置を取り外したとき、または取り付けたとき
- 特定の人だけが本ワークステーションを利用できるように、本ワークステーションにパスワード（暗証番号）を設定するとき
- メモリやシリアルポートなどの働きを設定するとき
- メッセージが表示されたとき



ポイント

CMOS Setup ユーティリティで設定した内容は、ワークステーション本体内部の CMOS RAM と呼ばれるメモリに記録されます。この CMOS RAM は、バッテリーによって記録した内容を保存しています。CMOS Setup ユーティリティを正しく行っても、電源を入れたとき、または再起動したときに、CMOS Setup ユーティリティに関するエラーメッセージが表示されるときは、この CMOS RAM に設定内容が保存されていない可能性があります。バッテリーの消耗が考えられますので、担当営業員、または担当保守員にご相談ください。

2 操作方法

CMOS Setup ユーティリティの操作方法

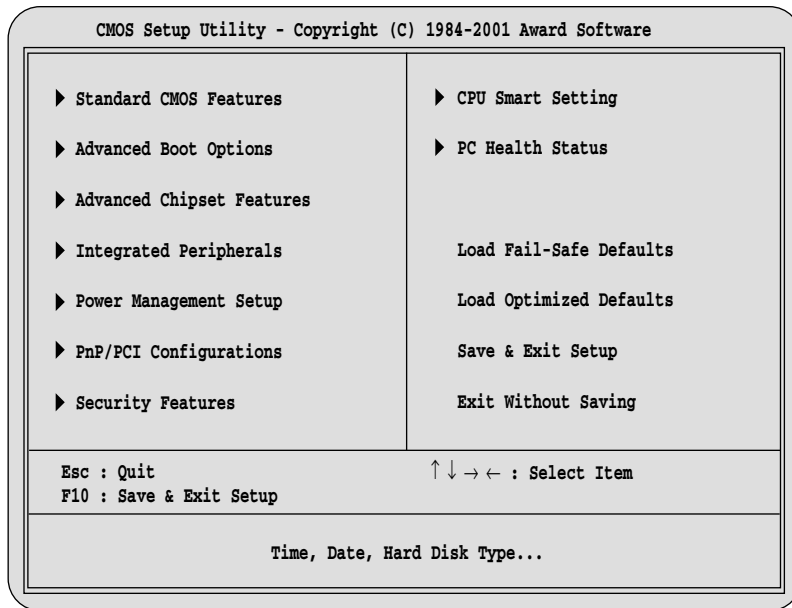
CMOS Setup ユーティリティ CMOS Setup ユーティリティの操作方法について説明します。

CMOS Setup ユーティリティを始める

CMOS Setup ユーティリティの始めかたは次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 画面左下に「Press TAB to show POST screen, DEL to enter SETUP」と表示されている間に、[DEL] キーを押します。

CMOS Setup ユーティリティの Main メニューが表示されます。



設定値を変更する

CMOS Setup ユーティリティで使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー、 【→】キー、【←】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
【Esc】キー	Main メニューでは、設定値を保存せずに CMOS Setup ユーティリティを終了します。その他のメニューでは前画面に戻ります。
【+】キー、【-】キー、 【Page Up】キー、 【Page Down】キー	選択した項目の設定値を変更します。
【F1】キー	ヘルプ画面を表示します。
【F2】キー	選択された項目のヘルプを表示します。【Esc】キーを押すと、ヘルプを終了します。
【F5】キー	変更された設定値を変更前の設定値に戻します。
【F6】キー	パラメータを最小構成に設定します。この設定は、システムにトラブルが発生した場合に使用します。通常のシステム運用時には選択しないでください。
【F7】キー	工場出荷設定時のシステムに最適な設定に戻します。
【F10】キー	設定値を保存し、CMOS Setup ユーティリティを終了します。



ポイント

CMOS Setup ユーティリティの設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておくか、変更した画面のページを印刷してください。
本ワークステーションの平行ポートにプリンタが接続されていれば、[Shift] キーを押しながら [Print] キーを押すことで、画面に表示されているページを印刷できます。

CMOS Setup ユーティリティを終了する

CMOS Setup ユーティリティの終わりかたは、次のとおりです。

設定値を保存して終了する

- 1 [F10] キーを押します。または Main メニューで、[] [] [] キーを使用して「Save & Exit Setup」を選択し、[Enter] キーを押します。
「SAVE to CMOS and EXIT (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 2 [Y] キーを押し、[Enter] キーを押します。
設定値が保存され、CMOS Setup ユーティリティが終了します。

設定値を保存せずに終了する

- 1 Main メニュー以外のメニューでは、何度か [Esc] キーを押して Main メニューに戻ります。
- 2 [Esc] キーを押します。または [] キーを使用して「Save & Exit Seup」を選択し、[Enter] キーを押します。
「Quit Without Saving (Y/N)?」というメッセージが表示されます。
- 3 [Y] キーを押し、[Enter] キーを押します。
CMOS Setup ユーティリティが終了します。

3 CMOS Setup ユーティリティのメニューと項目の詳細

CMOS Setup ユーティリティは、13 のメニューから構成されています。各設定項目は、これらのメニューの下に分類されています。各メニューおよび項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

Standard CMOS Features

本ワークステーションの、日時、ハードディスク、フロッピーディスクなどに関する基本的な設定を行います。

Advanced Boot Options

起動ドライブの選択など、本ワークステーション起動時の各種設定を行います。

Advanced Chipset Features

CPU/メモリ等に関する設定を行います。

Integrated Peripherals

システムボード上の入出力装置に関する設定を行います。

Power Management Setup

省電力モードに関する設定を行います。

PnP/PCI Configurations

システムリソースに関する設定を行います。

Security Features

セキュリティに関する設定を行います。

CPU Smart Setting

CPU の情報表示とクロック数設定を行います。

PC Health Status

温度、電圧等の環境情報を表示します。

Load Fail-Safe Defaults

パラメータを最小構成に設定します。この設定は、システムにトラブルが発生した場合に使用します。通常のシステム運用時には選択しないでください。

Load Optimized Defaults

工場出荷時の設定に戻します。

Save & Exit Setup

現在の設定値を保存してから、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

Exit Without Saving

現在の設定値を保存せずに、CMOS Setup ユーティリティを終了します。

Standard CMOS Features メニュー

本ワークステーションの、日時、ハードディスク、フロッピーディスクなどに関する基本的な設定を行います。

```
CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software
Standard CMOS Features

Date (mm:dd:yy)      xxx, xxx dd yyyy
Time (hh:mm:ss)     hh : mm : ss
Item Help

▶ IDE Primary Master [xxxxxxxxxx]
▶ IDE Primary Slave  [None]
▶ IDE Secondary Master [xxxxxxxxxx]
▶ IDE Secondary Slave [None]

Drive A              [1.44M, 3.5 in.]

Video                [EGA/VGA]

Base Memory          640K
Extended Memory      xxxxxxK
Total Memory         xxxxxxK

↑↓→←:Move  Enter:Select  +/-/PU/PD:Value  F10:Save  Esc:Exit  F1:General Help
F5:Previous Values  F6:Fail-Safe Defaults  F7:Optimized Defaults
```

Date

本ワークステーションの日付を示します。日付は " 曜日 , mmm dd yyyy " の形式で表示されます。

現在の日付の設定を変更するには、Date に新しい日付を入力します。

Time

本ワークステーションの時刻を示します。時刻は "hh:mm:ss" の形式で表示されます。

現在の時刻の設定を変更するには、Time に新しい時刻を入力します。

IDE Primary Channel Master

IDE Primary Channel Slave

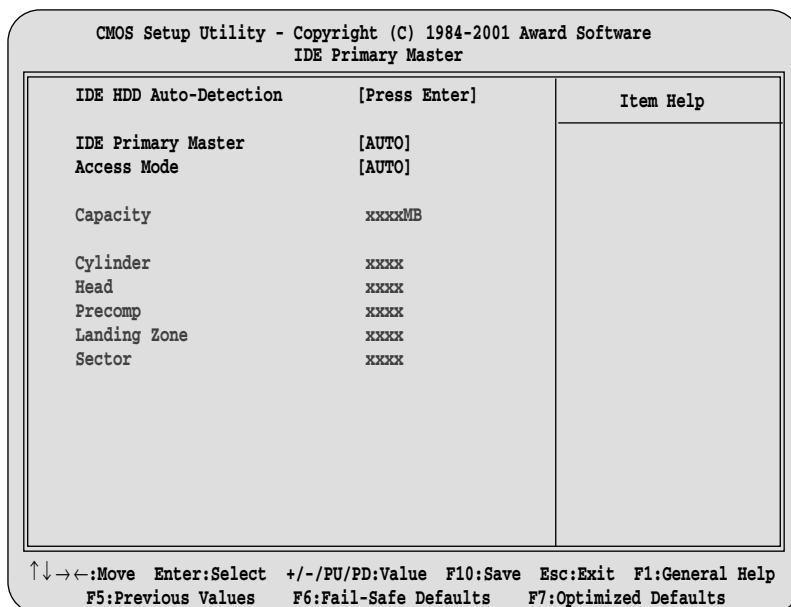
IDE Secondary Channel Master

IDE Secondary Channel Slave

各 IDE 規格のドライブ装置の各種設定を行います。

サブメニューを使って、プライマリ IDE コネクタとセカンダリ IDE コネクタに取り付けたマスタとスレーブのハードディスクなどのタイプ（容量やシリンダ数など）を設定します。

カーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューの画面が表示されます。



ポイント

不適切な転送モードに設定した場合、システムが正しく起動しない場合があります。初期値から変更しないでください。

IDE HDD Auto-Detection

この項目を選択して [Enter] キーを押すと、本ワークステーションが自動的に IDE ドライブのタイプを認識します。

IDE Primary Master

IDE Primary Slave

IDE Secondary Master

IDE Secondary Slave

IDE デバイスのタイプを設定します。

- Auto (初期値)
本ワークステーションが IDE デバイスのタイプを自動的に認識します。IDE デバイスの各種設定を自分で行わない場合に選択します。
- None
IDE デバイスを使わない場合に選択します。
- Manual
IDE デバイスのタイプを手動で設定します。



ポイント

通常は「Auto」の設定でお使いください。

Access Mode

IDE ドライブのアクセスモードを設定します。

IDE Primary Master/IDE Primary Slave/IDE Secondary Master/IDE Secondary Slave を Auto または Manual に設定したときに表示される項目です。

Access Mode の設定は、ハードディスクが LBA をサポートした場合にだけ有効になります。

- CHS
CHS 方式を使用します。
- LBA
LBA 方式を使用します。
- Large
Large 方式を使用します。
- Auto
アクセスモードを自動設定します。

Capacity, Cylinder, Head, Precomp, Landing Zone, Sector

本ワークステーションが検出したハードディスクの最大容量/シリンダ数/ヘッド数/書き込み補修シリンダ番号/ HDD ヘッド退避シリンダ位置/セクタ数を表示します。

IDE Primary Master/IDE Primary Slave/IDE Secondary Master/IDE Secondary Slave を Auto または Manual に設定したときに表示される項目です。

Drive A

フロッピーディスクドライブのタイプ (記録密度とドライブサイズ) が表示されます。表示される値は、以下のとおりです。

- None
- 360KB 5.25-inch
- 1.2MB 5.25-inch
- 720KB 3.5-inch
- 1.44MB 3.5-inch (初期値)
- 2.88MB 3.5-inch

Video

ビデオカードのタイプが表示されます。表示される値は以下のとおりです。

- EGA/VGA (初期値)
- CGA 40
- CGA 80
- MONO

Base Memory

1MB 以下の使用可能なベースメモリサイズが表示されます。

Extended Memory

1MB 以上のメモリサイズが表示されます。

Total Memory

総メモリサイズが表示されます。

Advanced Boot Options メニュー

本ワークステーション起動時の各種設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software Advanced Boot Options		
First Boot Device	[Floppy]	Item Help
Second Boot Device	[CDROM]	
Third Boot Device	[HDD-0]	
Boot Other Device	[Enabled]	
Onboard LAN Boot ROM	[Disabled]	
Quick Power On Self Test	[Enabled]	
Halt On	[All Errors]	
AC PWR Loss Recovery	[Former-Sts]	
Init Display First	[AGP]	
Boot Up Floppy Seek	[Enabled]	
Boot Up NumLock Status	[On]	
Full Screen LOGO Show	[Enabled]	
POWER ON Function	[BUTTON ONLY]	
× KB Power ON Password	Enter	
× Hot Key Power ON	Ctrl-F1	
× PS2 MOUSE Button Power ON	Left	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults

3

BIOS 設定

First Boot Device (Floppy)

Second Boot Device (CD-ROM)

Third Boot Device (HDD-0)

起動ドライブの優先順位を設定します。

優先順位は First Boot Device、Second Boot Device、Third Boot Device の順です。

- Floppy
フロッピーディスクドライブから起動します。
- LS120
LS-120 から起動します（本ワークステーションではサポートしておりません）。
- HDD-0
プライマリマスタに接続された IDE ハードディスクドライブから起動します。
- SCSI
SCSI ハードディスクドライブから起動します。
- CDROM
CD-ROM ドライブから起動します。
- HDD-1
プライマリスレーブに接続された IDE ハードディスクドライブから起動します。
- HDD-2
セカンダリマスタに接続された IDE ハードディスクドライブから起動します。

- HDD-3
セカンダリスレーブに接続された IDE ハードディスクドライブから起動します。



ポイント

CD-ROMからの起動にはブート可能なOSの入ったCD-ROMが必要となります。
一度電源を入れたあと、CD-ROMドライブにCD-ROMをセットしてから再起動してください。

Boot Other Device

本ワークステーションを、通常のブート順序以外の装置から起動できるようにするかどうか設定します。

- Disabled
起動できません。
- Enabled (初期値)
起動できます。

Onboard LAN Boot ROM

オンボード LAN チップの Boot ROM を起動するかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
起動しません。
- Enabled
起動します。

Quick Power On Self Test

システムを起動したあと、2回目以降の再起動時に POST (Power On Self Test) を行うかどうかを設定することで、Quick Boot を行うかどうかを設定します。

- Disabled
再起動時に POST を行います。
- Enabled (初期値)
再起動時に POST を行いません。Quick Boot します。

Halt On

どのような種類のエラーが発生したときにシステムを停止するかを設定します。

- All Errors (初期値)
すべてのエラーに対してシステムを停止します。
- No Errors
エラーが発生しても、システムを停止しません。
- All, But Keyboard
キーボード以外のエラー発生時にシステムを停止します。
- All, But Diskette
フロッピーディスク以外のエラー発生時にシステムを停止します。
- All, But Disk/Key
キーボードおよびフロッピーディスク以外のエラー発生時にシステムを停止します。

AC PWR Loss Recovery

停電などから復旧したときに電源を自動的に入れるかどうかを設定します。

- Always-Off
電源が入らないようにします。
- Always-On
電源が入るようにします。
- Former-Sts (初期値)
停電などが起きる前の状態にします。

Init Display First

マルチディスプレイ環境時、最初にブートされるビデオカードを選択します。

- PCI Slot
最初に PCI スロットのビデオカードをブートします。
- AGP (初期値)
最初に AGP のビデオカードをブートします。

Boot Up Floppy Seek

起動時に、システムが最初にフロッピーディスクを読み込みに行くかどうかを設定します。

- Disabled
フロッピーディスクの読み込みを行いません。
- Enabled (初期値)
フロッピーディスクの読み込みを行います。

Boot Up Numlock Status

起動したあとに、キーボードを Num Lock 状態にするかどうかを設定します。

- Off
キーボードを Num Lock 状態にしません。
- On (初期値)
キーボードを Num Lock 状態にします。

Full Screen LOGO Show

POST 時にサイレントブート (CELSIUS ロゴの表示) を行うかどうかを設定します。サイレントブートを行うと、POST の途中経過は画面には表示されません。

- Disabled
サイレントブートを行いません。
- Enabled (初期値)
サイレントブートを行います。

POWER ON Function

本ワークステーションの電源を入れる方法を選択します。

- Password
パスワードを入力して電源を入れることができますようにします。
- Hot KEY
ホットキーを使って電源を入れることができますようにします。
- Mouse/Password
マウスボタンとパスワードを使って電源を入れることができますようにします。
- Mouse/Hot KEY
マウスボタンとホットキーを使って電源を入れることができますようにします。
- BUTTON ONLY (初期値)
電源ボタンを押したときのみ、電源を入れることができますようにします。
- Keyboard 98
電源ボタン付きキーボードを使って、電源を入れることができますようにします。



ポイント

本ワークステーションでは、電源ボタン付きのキーボードはサポートしていません。

KB Power ON Password

電源を入れるときに入力するパスワードを設定します。この項目を選択して [Enter] キーを押すと、パスワードを入力できます。

この項目は、「POWER ON Function」で「Password」または「Mouse/Password」が選択されている場合に設定できます。

Hot Key Power ON

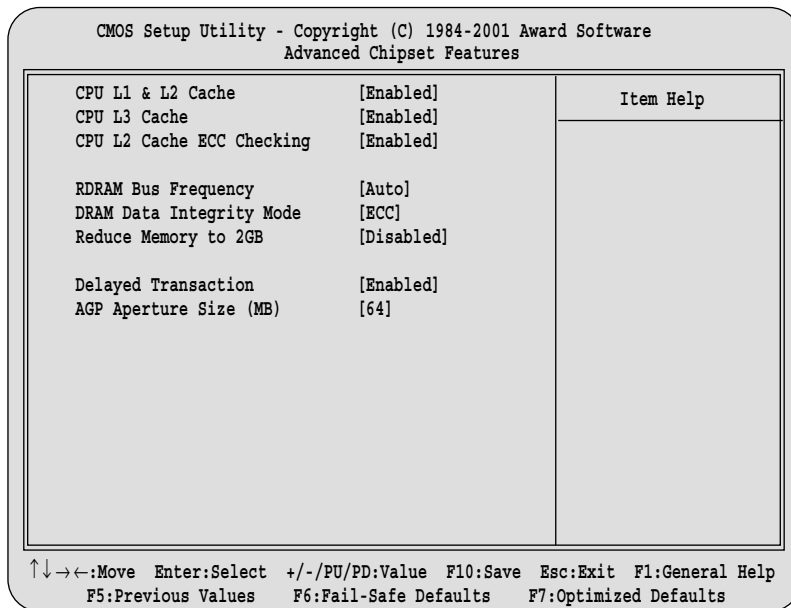
電源を入れるときに使用するホットキー ([Ctrl]+[F1] ~ [Ctrl]+[F12] キー) を選択します。

この項目は、「POWER ON Function」で「Hot KEY」または「Mouse/Hot KEY」が選択されている場合に設定できます。

- Ctrl-f1 / Ctrl-f2 / Ctrl-f3 / Ctrl-f4 / Ctrl-f5 / Ctrl-f6 / Ctrl-f7 / Ctrl-f8 /
Ctrl-f9 / Ctrl-f10 / Ctrl-f11 / Ctrl-f12

Advanced Chipset Features メニュー

CPU やメモリなどに関する詳細を設定します。



3

BIOS 設定

CPU L1 & L2 Cache

1 次キャッシュと 2 次キャッシュを使用するかどうかを設定します。

- Disabled
1 次キャッシュと 2 次キャッシュを使用しません。
- Enabled (初期値)
1 次キャッシュと 2 次キャッシュを使用します。

CPU L3 Cache

3 次キャッシュを使用するかどうかを設定します。

- Disabled
3 次キャッシュを使用しません。
- Enabled (初期値)
3 次キャッシュを使用します (本ワークステーションでは、3 次キャッシュをサポートしていません)。

CPU L2 Cache ECC Checking

プロセッサと内部 2 次キャッシュの間でのデータエラー検出および訂正を行うかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)
データエラー検出および訂正を行います。
- Disabled
データエラー検出および訂正を行いません。

RDRAM Bus Frequency

メインメモリのバスクロック数を設定します。

- Auto (初期値)
バスクロック数を自動設定します。
- 400 MHz
バスクロック数を 400 MHz に設定します。
- 300 MHz
バスクロック数を 300 MHz に設定します。

DRAM Data Integrity Mode

メモリデータの保護モードを設定します。

- Non-ECC
ECC なしメモリの場合に選択します。
- ECC (初期値)
ECC 付きメモリの場合に選択します。

Reduce Memory to 2GB

メインメモリが 2GB 以上搭載されている場合、強制的に認識するメモリ容量を 2GB に縮小させるかどうかを設定します。

Windows NT をインストールする場合は、必ず [Enabled] に設定してください。通常は、[Disabled] から変更しないでください。

- Disabled (初期値)
認識するメモリ容量を 2GB に縮小しません。
- Enabled
認識するメモリ容量を、強制的に 2GB に縮小します。

Delayed Transaction

システムの効率を上げるために、ISA バスのアクセス中に PCI バスを解放するかどうかを設定します。

- Disabled
PCI バスを解放します。
- Enabled (初期値)
PCI バスを解放しません。

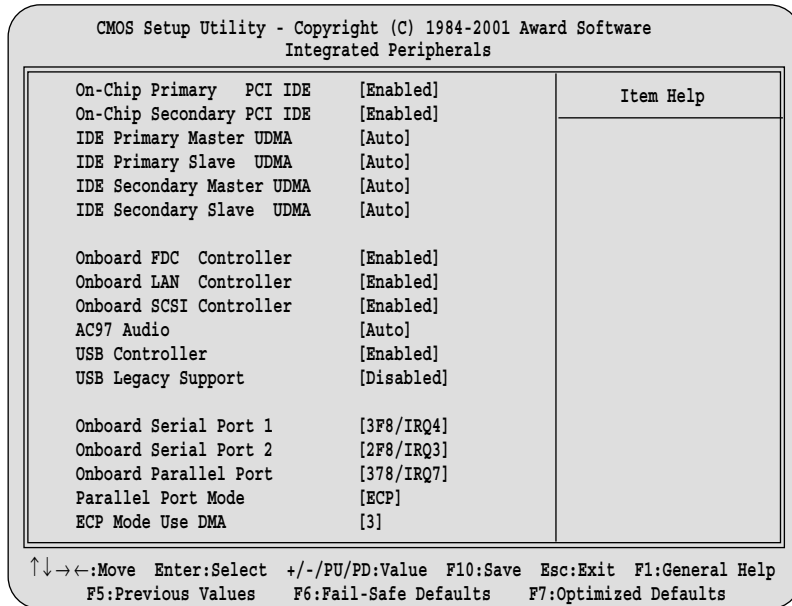
AGP Aperture Size (MB)

AGP カードを使用している場合に、グラフィックスアパーチャのサイズ (MB) を設定します。この機能を使用して、使用可能なビデオメモリを拡大ができます。

- 4 / 8 / 16 / 32 / 64 (初期値) / 128 / 256

Integrated Peripherals メニュー

システムボード上の入出力装置に関する設定を行います。



3

BIOS 設定

On-Chip Primary PCI IDE

プライマリ IDE コネクタを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
プライマリ IDE コネクタを無効にします。
- Enabled (初期値)
プライマリ IDE コネクタを有効にします。

On-Chip Secondary PCI IDE

セカンダリ IDE コネクタを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
セカンダリ IDE コネクタを無効にします。
- Enabled (初期値)
セカンダリ IDE コネクタを有効にします。

IDE Primary Master UDMA

IDE Primary Slave UDMA

IDE Secondary Master UDMA

IDE Secondary Slave UDMA

各 IDE コネクタの Ultra DMA モードを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled

Ultra DMA モードを無効にします。

- AUTO (初期値)
Ultra DMA モードを有効にします。

Onboard FDC Controller

FDC コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
FDC コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
FDC コントローラを有効にします。

Onboard LAN Controller

LAN コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
LAN コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
LAN コントローラを有効にします。

Onboard SCSI Controller

SCSI コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
SCSI コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
SCSI コントローラを有効にします。

AC97 Audio

システムボード上のオーディオコントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Auto (初期値)
オーディオコントローラを有効にします。
- Disabled
オーディオコントローラを無効にします。

USB Controller

USB コントローラを有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
USB コントローラを無効にします。
- Enabled (初期値)
USB コントローラを有効にします。

USB Legacy Support

Windows NT など USB をサポートしていない OS で USB キーボードまたは USB マウスを使用できるようにするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
USB デバイスを使用できないようにします。
- Enabled
USB デバイスを使用できるようにします。

Onboard Serial Port 1

シリアルポート 1 の I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled
シリアルポート 1 を無効にします。
- 3F8h/IRQ4 (初期値)
- 2F8h/IRQ3
- 3E8/IRQ4
- 2E8/IRQ3
- Auto
I/O アドレスと割り込み要求を自動的に設定します。

Onboard Serial Port 2

シリアルポート 2 の I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled
シリアルポート 2 を無効にします。
- 3F8h/IRQ4
- 2F8h/IRQ3 (初期値)
- 3E8/IRQ4
- 2E8/IRQ3
- Auto
I/O アドレスと割り込み要求を自動的に設定します。

Onboard Parallel Port

パラレルポートの I/O アドレスと割り込み要求を設定します。

- Disabled
パラレルポートを無効にします。
- 378/IRQ7 (初期値)
- 278/IRQ5
- 3BC/IRQ7

Parallel Port Mode

パラレルポートに接続する装置の種類を設定します。

- SPP
SPP (Standard Parallel Port) 規格に対応した周辺装置を接続するときに選択します。
- EPP
EPP (Enhanced Parallel Port) 規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- ECP (初期値)
ECP (Enhanced Capability Port) 規格の周辺装置を接続するときに選択します。
- ECP+EPP
双方向モードを使う周辺装置を接続するときに選択します。

ECP Mode Use DMA

ECP 規格の周辺装置に DMA 転送を行う場合の DMA チャンネルを設定します。
この項目は、「Parallel Port Mode」で「ECP」または「ECP+EPP」が選択されているときに設定できます。

- 1
- 3 (初期値)

Power Management Setup メニュー

省電力モードに関する設定を行います。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software		
Power Management Setup		
		Item Help
Power Management	[User Define]	
Video Off Method	[V/H SYNC+Blank]	
Video Off In Suspend	[Yes]	
MODEM Use IRQ	[3]	
APM Suspend Timer	[Disabled]	
APM HDD Power Down Timer	[Disabled]	
Wake Up by PME	[Enabled]	
Wake Up by Ring/WOL	[Enabled]	
PWROn/Resume by Alarm	[Disabled]	
× Date(of Month) Alarm	x	
× Time(hh:mm:ss) Alarm	xx:xx:xx	
** Reload APM Timer Events **		
Primary IDE 0	[Disabled]	
Primary IDE 1	[Disabled]	
Secondary IDE 0	[Disabled]	
Secondary IDE 1	[Disabled]	
FDD,COM,LPT Port	[Disabled]	
PCI PIRQ#	[Disabled]	

↑↓→←:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults

3

BIOS 設定

Power Management

省電力モードのレベルを設定します。

- User Define (初期値)
省電力モードのパラメータを手動で設定します。設定できるパラメータは「APM Suspend Timer」と「APM HDD Power Down Timer」です。
- Min Saving
最も弱い省電力モードに設定します。省電力モードへの移行時間は 1 時間です。
- Max Saving
最も強い省電力モードに設定します。省電力モードへの移行時間は 1 分です。

Video Off Method

省電力モード時のビデオオフ機能を設定します。

- Blank Screen
スクリーンを消します。省電力機能のないディスプレイを使用する場合に選択します。
- V/H SYNC+Blank (初期値)
ビデオカードからディスプレイへの信号をオフにし、スクリーンを消します。
- DPMS
ビデオカードの DPMS (Display Power Management System) 機能を使って、スクリーンを消します。

Video Off In Suspend

サスペンドモード時に、ディスプレイへの出力をオフにするかどうかを設定します。

- No
ディスプレイに出力します。
- Yes (初期値)
ディスプレイへの出力をオフにします。

MODEM Use IRQ

電源管理に使用するモデムの割り込み要求番号を設定します。

- NA
割り込み要求をしません。電源管理にモデムを使用しません。
- 3 (初期値)
- 4
- 5
- 7
- 9
- 10
- 11

APM Suspend Timer

APM (Advanced Power Management) でサスペンドモードに移行するまでの時間 (分) を設定します。

この項目は、「Power Management」で「User Define」を選択した場合に設定できます。

- Disabled (初期値)
サスペンドモードに移行しません。
- 1 / 2 / 4 / 8 / 12 / 20 / 30 Min

APM HDD Power Down Timer

APM でハードディスクドライブの電源を切るまでの時間 (分) を設定します。

この項目は、「Power Management」で「User Define」を選択した場合に設定できます。

- Disabled (初期値)
ハードディスクドライブの電源を切りません。
- 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 Min

Wake Up by PME

PME(Power Management Enable) 信号から電源を入れるかどうかを設定します。

- Disabled
PME 信号から電源を入れません。
- Enabled (初期値)
PME 信号から電源を入れます。

Wake Up by Ring/WOL

Wake On Ring または Wake On LAN で電源を入れるかどうかを設定します。

- Disabled
Wake On Ring または Wake On LAN で電源を入れません。
- Enabled (初期値)
Wake On Ring または Wake On LAN で電源を入れます。

PWROn/Resume by Alarm

アラームで電源を入れたりレジュームしたりするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
アラームで電源を入れたりレジュームしたりしません。
- Enabled
アラームで電源を入れたりレジュームしたりします。

Date(of Month) Alarm

アラームの日付 (0 ~ 31 日) を設定します。この項目を選択して [Enter] キーを押すと、日付を入力できます。

この項目は、「PWROn/Resume by Alarm」で「Enabled」を選択した場合に設定できます。

Date(hh:mm:ss) Alarm

アラームの時刻を設定します。この項目を選択して [Enter] キーを押すと、時刻を入力できます。

この項目は、「PWROn/Resume by Alarm」で「Enabled」を選択した場合に設定できます。

Reload APM Timer Events

Primary IDE 0

Primary IDE 1

Secondary IDE 0

Secondary IDE 1

IDE コネクタに接続されている機器が APM サスペンドモードに入るまでの時間計測を、リセットするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
リセットしません。
- Enabled
リセットします。

FDD,COM,LPT Port

フロッピーディスクドライブ、COMポートやLPTポートに接続されている機器が APM サスペンドモードに入るまでの時間計測を、リセットするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
リセットしません。
- Enabled
リセットします。

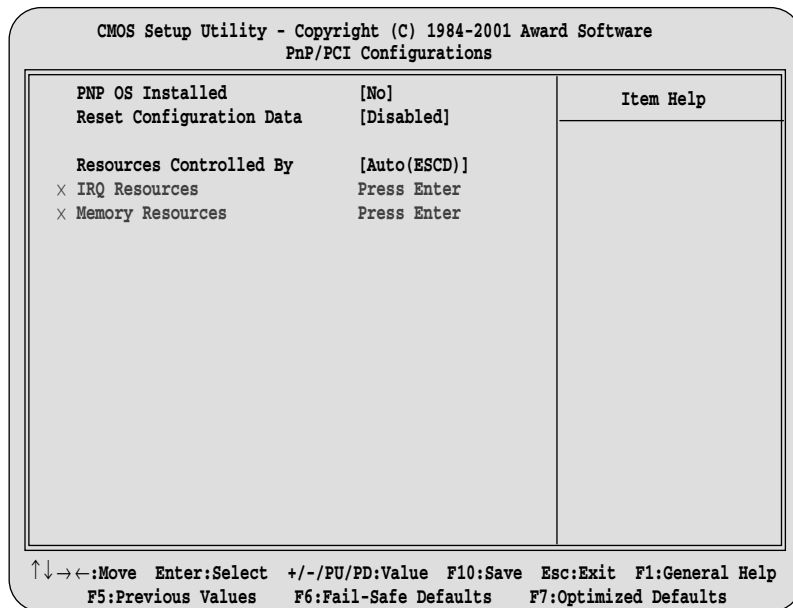
PCI PIRQ#

PCI に接続されたデバイスが APM スペンドモードに入るまでの時間計測を、リセットするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
リセットしません。
- Enabled
リセットします。

PnP/PCI Configurations メニュー

システムリソースに関する設定を行います。



Reset Confituration Data

ESCD (Extended System Configuration Data) に保存されている Plug & Play の情報を、起動時にリセットするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
リセットしません。
- Enabled
リセットします。

Resources Controlled By

各装置に割り当てる割り込み要求や DMA、I/O アドレスなどのリソースを、Plug & Play により自動的に割り当てるか手動で割り当てるかを選択します。

- Auto(ESCD) (初期値)
自動的に割り当てます。
- Manual
手動で割り当てます。

IRQ Resources

各装置に割り当てる割り込み要求を設定します。

この項目は、「Resources Controlled By」で「Manual」が選択されている場合に設定できます。この項目にカーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューが表示されます。

CMOS Setup Utility - Copyright (C) 1984-2001 Award Software			
PC Health Status			
			Item Help
IRQ-3	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-4	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-5	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-7	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-9	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-10	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-11	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-12	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-14	assigned to	[PCI Device]	
IRQ-15	assigned to	[PCI Device]	

↑↓←→:Move Enter:Select +/-/PU/PD:Value F10:Save Esc:Exit F1:General Help
F5:Previous Values F6:Fail-Safe Defaults F7:Optimized Defaults

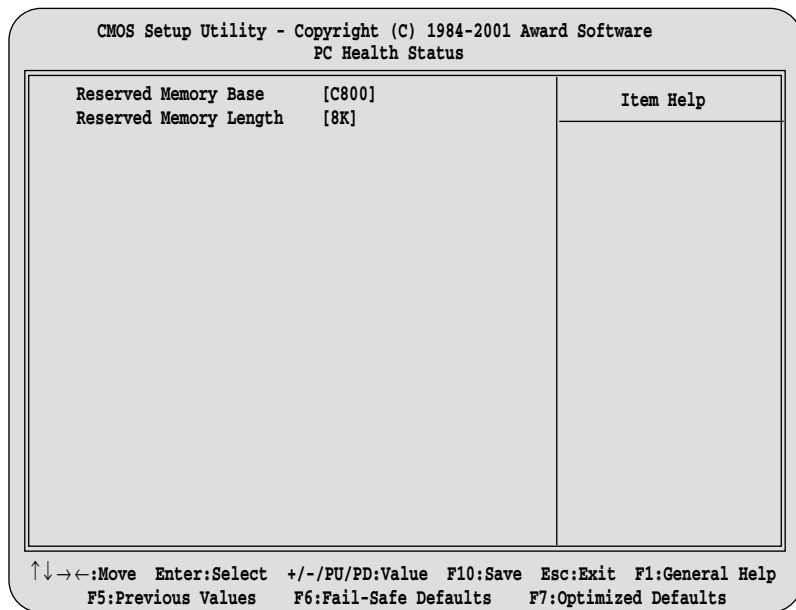
IRQ-3/IRQ-4/IRQ-5/IRQ-7/IRQ-9/IRQ-10/IRQ-11/IRQ-12/IRQ-14/IRQ-15
assigned to

各割り込み要求を割り当てます。

- PCI Device
選択した割り込み要求を PCI スロットに接続された機器に割り当てます。
- Reserved
割り込み要求を割り当てません。

Memory Resources

メモリに関するパラメータを設定します。
この項目は、「Resources Controlled By」で「Manual」が選択されている場合に設定できます。この項目にカーソルを合わせて [Enter] キーを押すと、サブメニューが表示されます。



Reserved Memory Base

プラグアンドプレイに対応していないデバイスのためのローメモリリソースを確保するアドレスを設定します。

- N/A
ローメモリリソースを確保しません。
- C800 / CC00 / D000 / D400 / D800 / DC00

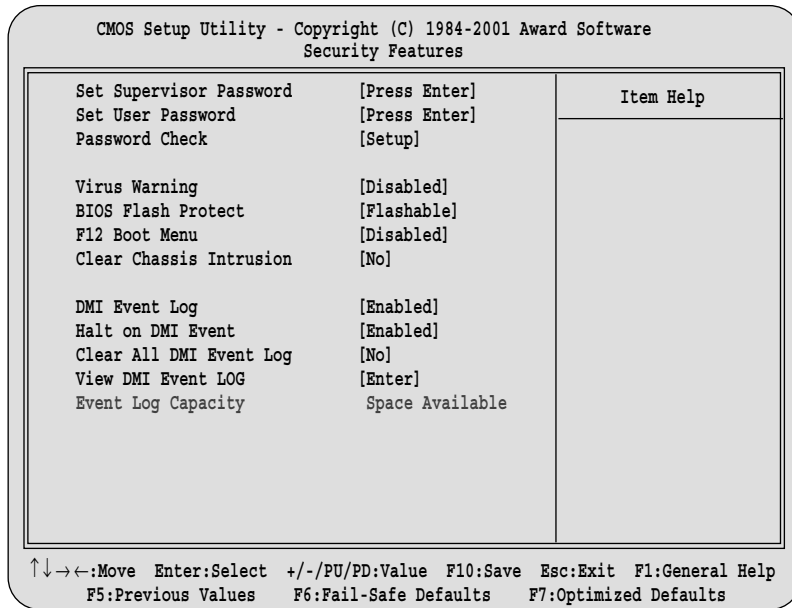
Reserved Memory Length

プラグアンドプレイに対応していないデバイスのために確保するローメモリ容量を設定します。

- 8 / 16 / 32 / 64 K

Security Features メニュー

セキュリティに関する設定を行います。



3

BIOS 設定

Set Supervisor Password

システム管理者用パスワードを設定します。この項目を選択して [Enter] キーを押すと、パスワードを入力できます。

Set User Password

一般利用者用パスワードを設定します。この項目を選択して [Enter] キーを押すと、パスワードを入力できます。

Password Check

パスワード設定をした場合、いつパスワードを要求するかを設定します。

- Setup (初期値)
BIOS 設定画面に入るときにパスワードを要求します。
- System
BIOS 設定画面に入るとき、またはシステム起動時にパスワードを要求します。

Virus Warning

ウィルスからシステムを保護するために、ハードディスクドライブのブートセクタとパーティションテーブルへのデータの書き込みを禁止するかどうかを設定します。

- Enabled
書き込みを禁止します。
- Disabled (初期値)
書き込みを禁止しません。

BIOS Flash Protect

BIOS 書き換えを許可するかどうかを設定します。

- Non-Flash
BIOS 書き換えを許可しません。
- Flashable (初期値)
BIOS 書き換えを許可します。

F12 Boot Menu

装置起動時 (POST 時)、キーボードの [F12] キーを押したときにブートメニューを表示させるかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
ブートメニューを表示しません。
- Flashable (初期値)
ブートメニューを表示します。

Clear Chassis Intrusion

シャーシが開けられたという警告がシステムから表示された場合、警告に関する情報を消去するかどうかを設定します。

一度警告が表示されると、シャーシを閉じたあとも警告が表示され続けます。この場合、設定を「Yes」にして警告情報を消去します。

- No (初期値)
警告情報を消去しません。
- Yes
警告情報を消去します。

DMI Event Log

装置起動時 (POST 時) に検出したエラーなどのイベントロギング処理を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled
無効にします。
- Enabled (初期値)
有効にします。

Halt on DMI Event

装置起動時 (POST 時) にエラーを検出したとき、システムを止めるかどうかを設定します。

- Disabled
システムを止めません。
- Enabled (初期値)
システムを止めます。

Clear All DMI Event Log

イベントログの消去を行うかどうかを設定します。

- No (初期値)
イベントログを消去しません。
- Yes
イベントログを消去します。

View DMI Event Log

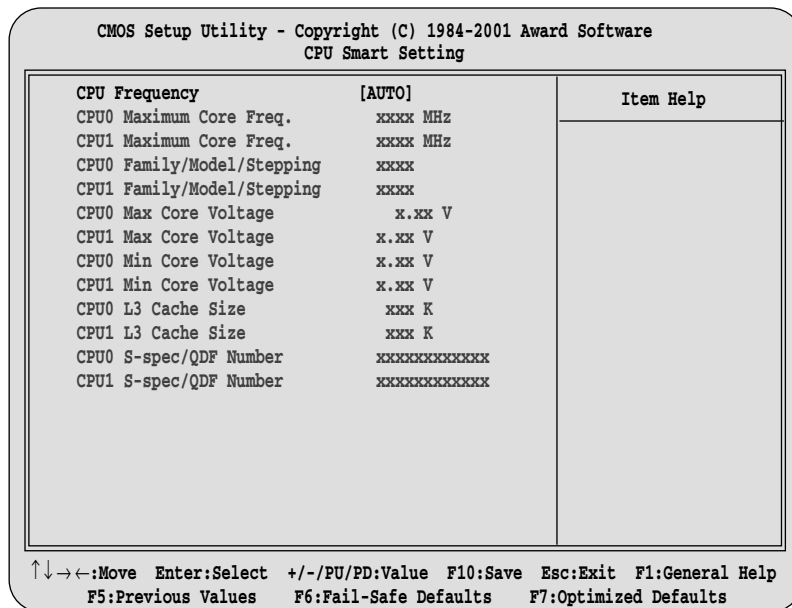
この項目を選択して [Enter] キーを押すと、イベントログが表示されます。

Event Log Capacity

イベントログ格納領域が残っているかどうかを表示します。

CPU Smart Setting メニュー

CPU の情報表示とクロック数設定を行います。



CPU Frequency

CPU のクロック数を設定します。CPU のクロック数は固定されていて変更できません。通常は「Auto」のまま変更しないでください。

- Auto (初期値)
CPU のクロック数を自動設定します。
- 800 MHz/1.0 GHz/1.1 GHz/1.2 GHz/1.3 GHz/1.4 GHz/1.5 GHz/1.6 GHz/1.7 GHz/1.8 GHz/1.9 GHz/2.0 GHz/2.1 GHz/2.2 GHz/2.3 GHz/2.4 GHz
CPU のクロック数を手動で設定します。

CPU0 Maximum Core Freq.

CPU1 Maximum Core Freq.

CPU の最大コアクロック数を表示します。「CPU1 Maximum Cor Freq.」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

CPU0 Family/Model/Stepping

CPU1 Family/Model/Stepping

CPU の Family/Model/Stepping 情報を表示します。「CPU1 Family/Model/Stepping」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

CPU0 Max Core Voltage

CPU1 Max Core Voltage

CPU の最大コア電圧を表示します。「CPU1 Max Core Voltage」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

CPU0 Min Core Voltage

CPU1 Min Core Voltage

CPU の最低コア電圧を表示します。「CPU1 Min Core Voltage」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

CPU0 L3 Cache Size

CPU1 L3 Cache Size

CPU の L3 キャッシュサイズを表示します。「CPU1 L3 Cache Size」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

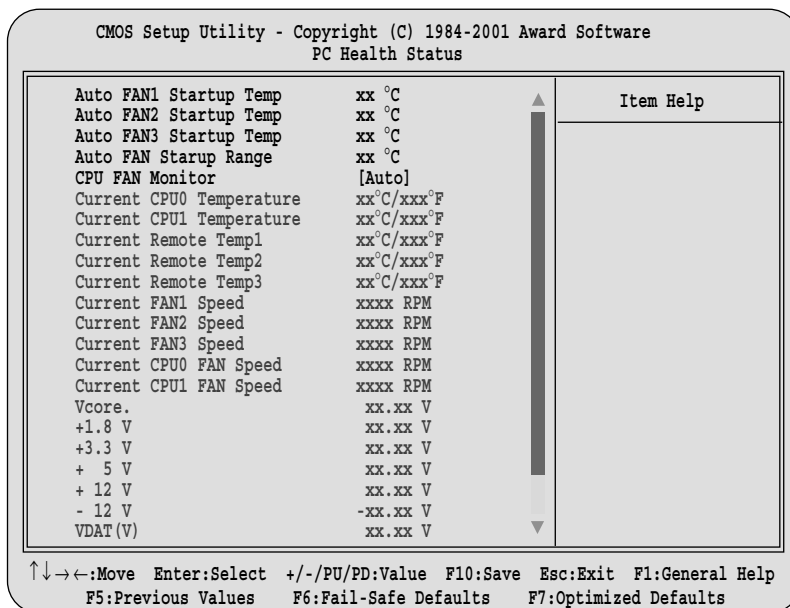
CPU0 S-spec/QDF Number

CPU1 S-spec/QDF Number

CPU の S-spec/QDF Number 情報を表示します。「CPU1 S-spec/QDF Number」は、CPU を 2 つ搭載時に表示されます。

PC Health Status メニュー

温度、電圧等の環境情報を表示します。



3

BIOS 設定

Auto FAN1/FAN2/FAN3 Startup Temp

ファン 1～3 (ファン 1: 背面ファン、ファン 2: 前面ファン 1、ファン 3: 前面ファン 2) が動作する温度を設定します。

本ワークステーションでは、設定値は変更できません。

Auto FAN Startup Range

ファン 1～3 が最大風量動作する温度を設定します。システム内部温度が、「Auto FAN1/FAN2/FAN3 Startup Temp」の設定温度にこの項目の設定温度を足した温度に達すると、ファンが最大風量動作します。

本ワークステーションでは、設定値は変更できません。

CPU FAN Monitor

CPU ファンの監視方法を設定します。

- Auto (初期値)
CPU ファンが搭載されているかどうかを自動認識し、搭載されている CPU ファンを監視します。
- Enabled
強制的に CPU ファンを監視します。
- Disabled
CPU ファンを監視しません。

Current CPU0 Temperature

Current CPU1 Temperature

現在の CPU の温度を表示します。「Current CPU1 Temperature」は、CPU を 2 つ搭載時のみ表示されます。

Current Remote Temp1

Current Remote Temp2

Current Remote Temp3

システムボード上の温度を表示します。それぞれの項目に対応するシステムボード上の位置については、「1 システムボード」(→ 144 ページ)を参照してください。

Current FAN1/FAN2/FAN3 Speed

現在のファン 1 ~ 3 の回転速度 (rpm) が表示されます。

ファン 1 : 筐体背面ファン (120mm)

ファン 2 : 筐体前面ファン 1 (80mm)

ファン 3 : 筐体前面ファン 2 (120mm)

Current CPU0 FAN Speed

Current CPU1 FAN Speed

CPU ファンの回転数を表示します。

Vcore.

現在の Vcore の電圧が表示されます。

+1.8 V

現在の +1.8 V ラインの電圧が表示されます。

+3.3 V

現在の +3.3 V ラインの電圧が表示されます。

+5V

現在の +5 V ラインの電圧が表示されます。

+12 V

現在の +12 V ラインの電圧が表示されます。

- 12 V

現在の -12 V ラインの電圧が表示されます。

VBAT(V)

現在の本体内蔵電池の電圧が表示されます。

5VSB(V)

現在の 5V スタンバイの電圧が表示されます。

Load Fail-Safe Defaults

パラメータを最小構成に設定します。この設定は、システムにトラブルが発生した場合に使用します。通常のシステム運用時には選択しないでください。

Load Optimized Defaults

工場出荷時の設定に戻します。

Save & Exit Setup

現在の設定を保存してから、CMOS Setup ユーティリティを終了します。[Enter] キーを押すと、終了確認のメッセージが表示されます。

[Y] キーを押し、[Enter] キーを押すと終了します。

[N] キーを押し、[Enter] キーを押すと Main メニューに戻ります。

Exit Without Saving

現在の設定を保存せずに、CMOS Setup ユーティリティを終了します。[Enter] キーを押すと、終了確認のメッセージが表示されます。

[Y] キーを押し、[Enter] キーを押すと終了します。

[N] キーを押し、[Enter] キーを押すと Main メニューに戻ります。

4 SCSI BIOS 設定

この章では、内蔵ハードディスクを取り付けたあとに行う、SCSI BIOS 設定について説明しています。

Contents

1 SCSI BIOS 設定とは.....	118
2 操作方法	119
3 Fast!UTIL ユーティリティのメニューと項目の詳細.....	121

1 SCSI BIOS 設定とは

SCSI BIOS 設定は、「Fast!UTIL ユーティリティ」と呼ばれるプログラムを使用します。

Fast!UTIL ユーティリティは、本ワークステーションとデバイス間の環境を設定します。

本ワークステーションでは、必要最小限のことはお買い求めのときにすでに設定されています。次の場合のみ設定を行う必要があります。

- デフォルト値の変更
- 他のデバイスと競合する可能性のある SCSI デバイスの設定（SCSI ID など）のチェックや変更の必要がある場合
- 新しい SCSI ディスクデバイスを物理フォーマットする場合
- 内蔵 SCSI オプションを取り付けた場合

2 操作方法

Fast!UTIL ユーティリティの操作方法

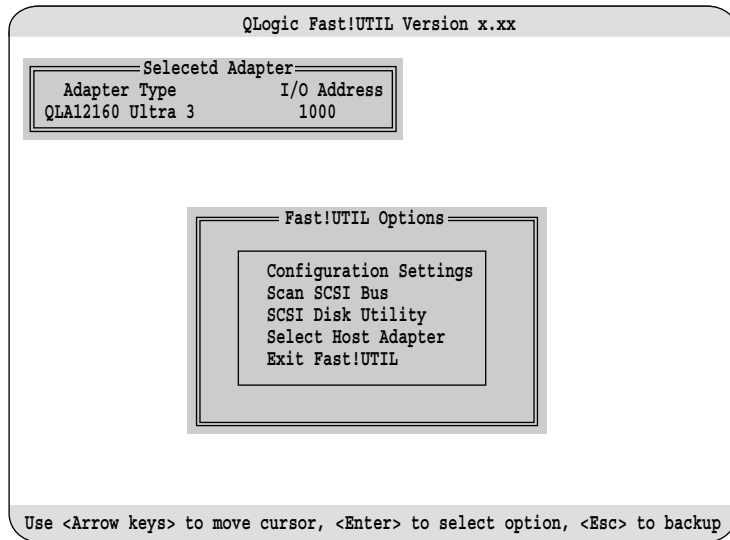
Fast!UTIL ユーティリティの操作方法について説明します。

Fast!UTIL ユーティリティを始める

Fast!UTIL ユーティリティの始めかたは次のとおりです。

- 1 本ワークステーションの電源を入れる、または再起動します。
- 2 POST 実行中に「Press <Alt-Q> for Fast!UTIL」と表示されている間に、[Alt]+[Q] キーを押します。

Fast!UTIL ユーティリティの Main メニューが画面に表示されます。



設定値を変更する

Fast!UTIL ユーティリティで使用するキーの役割は、次のとおりです。

キー	役割
【↑】キー、【↓】キー	設定する項目にカーソルを移動します。
【Enter】キー	項目を選択します。サブメニューがある場合は、サブメニューを表示します。
【Esc】キー	前画面に戻ります。



ポイント

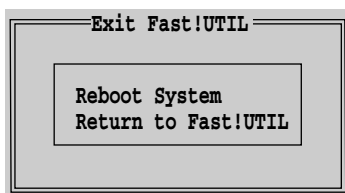
Fast!UTIL ユーティリティの設定項目を変更する場合は、変更した設定項目をメモしておくか、変更した画面のページを印刷してください。

本ワークステーションの平行ポートにプリンタが接続されていれば、[Shift] キーを押しながら [Print] キーを押すことで、画面に表示されているページを印刷できます。

Fast!UTIL ユーティリティを終了する

Fast!UTIL ユーティリティの終わりかたは、次のとおりです。

- 1 Main メニュー以外のメニューでは、何度か [Esc] キーを押して Main メニューに戻ります。
- 2 [Esc] キーを押すか、または [] キーを使用して「Exit Fast!UTIL」を選択し、[Enter] キーを押します。
Exit Fast!UTIL メニューが画面に表示されます。



- 3 [] キーを使用して「Reboot System」を選択し、[Enter] キーを押します。
Fast!UTIL ユーティリティが終了します。

3 Fast!UTIL ユーティリティのメニューと項目の詳細

Fast!UTIL ユーティリティは、5つのメニューから構成されています。各設定項目は、これらのメニューの下に分類されています。各メニューおよび項目の詳細は、次の節以降を参照してください。

Configuration Settings メニュー

Configuration Settings サブメニューを表示して、SCSI コントローラや SCSI デバイスの設定を変更します。

Scan SCSI Bus メニュー

SCSI バスをスキャンし、接続されているすべてのデバイスを表示します。

SCSI Disk Utility メニュー

SCSI バスのスキャン後、デバイスをリストアップします。

Select Host Adapter メニュー

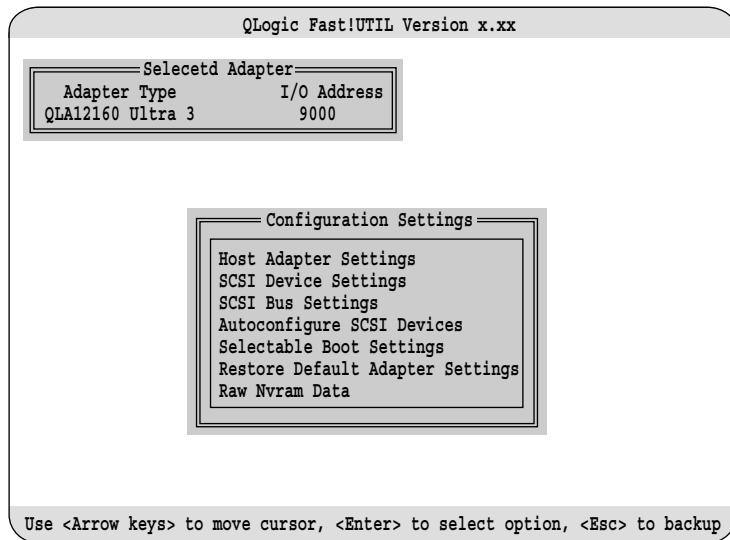
SCSI デバイスのスキャン後にリストアップされるデバイスを選択し、ローレベルフォーマットやベリファイを行います。

Exit Fast!UTIL メニュー

Fast!UTIL ユーティリティを終了します。

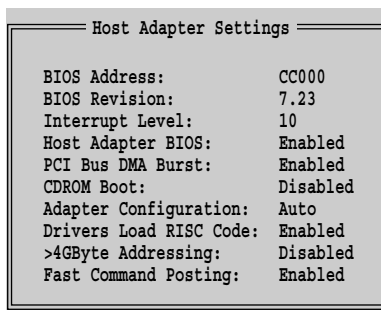
Configuration Settings メニュー

SCSI コントローラや SCSI デバイスの設定を変更します。



Host Adapter Settings

ホストアダプタの設定を行います。



BIOS Address

ホストアダプタの BIOS のメモリアドレスを表示します。

BIOS Revision

ホストアダプタの BIOS のリビジョンを表示します。

Interrupt Level

ホストアダプタの割り込みレベル (IRQ) を表示します。

Host Adapter BIOS

ホストアダプタの BIOS を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
無効にします。
- Enabled
有効にします。

PCI Bus DMA Burst

バースト転送を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
無効にします。
- Enabled
有効にします。

CDROM Boot

CD-ROM からの起動を有効にするかどうかを設定します。

- Disabled (初期値)
無効にします。
- Enabled
有効にします。



ポイント

SCSI CD-ROM ドライブ(または CD-ROM 読み込み可能なデバイス)と CD-ROM からの起動には、ブート可能な OS の入った CD-ROM が必要となります。

Adapter Configuration

パラメータの設定方法を選択します。

- Auto (初期値)
ROM BIOS が自動的にパラメータを設定します。
- Manual
手動で設定します。
- Safe
すべてのパラメータが最小構成に設定されます。



ポイント

「Safe」は、主に SCSI デバイスにトラブル発生した場合に使用するモードです。通常のシステム運用時には選択しないでください。

Drivers Load RISC Code

RISC ファームウェアをどのようにロードするかを設定します。

- Disabled
システムからロードします。
- Enabled (初期値)
ドライバからロードします。

>4GByte Addressing

アドレッシングの設定を行います。

- Disabled (初期値)
搭載しているメモリが 4GB より少ない場合に選択します。
- Enabled
4GB 以上メモリを搭載している場合に選択します。

Fast Command Posting

割り込み数を最小限にすることでコマンド実行時間を減少させるかどうかを設定します。

- Disabled
割り込み数を最小限にしません。
- Enabled (初期値)
割り込み数を最小限にします。

SCSI Device Settings

各 SCSI デバイスのパラメータを設定します。ホストアダプタの設定を行ったあとで設定してください。

以下のパラメータは、「Host Adapter Settings」の「Adapter Configuration」が「Manual」に設定されている場合に変更することができます。

- Enable PPR
- Enable Device
- Negotiate Wide
- Negotiate Sync
- Tagged Queuing
- Sync Offset
- Sync Period
- Exec Throttle

SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと、以下のサブメニューの画面が表示されます。

```

QLogic Fast!UTIL Version x.xx

-----Selectcd Adapter-----
Adapter Type      I/O Address
QLA12160 Ultra 3      9000

-----Adapter Configuration Mode-----
Auto

SCSI Bus 0 Device settings
SCSI ID: 0  1  2  3  4  5  6  7  8  9  10 11 12 13 14 15
Disconnects OK Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes
Check Parity   Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes
Enable LUNs    Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes
EnablePPR      Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes
Enable Device  Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes
Negotiate Wide Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes
Negotiate Sync Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes
Tagged Queuing Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes Yes
Sync Offset    24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24 24
Sync Period    9  9  9  9  9  9  9  9  9  9  9  9  9  9  9
Exec Throttle  16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16 16

Use <Tab key> to toggle between individual or group settings
Use <Arrow keys> and <Enter> to change settings, <Esc> to exit

```

Disconnects OK

SCSI デバイスをホストアダプタから任意に切断できるようにするかどうかを設定します。

- Yes (初期値)
切断できるようにします。
- No
切断できません。

Check Parity

SCSI のパリティチェックを有効にするかどうかを設定します。

- Yes (初期値)
有効にします。
- No
無効にします。

Enable LUNs

複数の LUN (論理ユニット番号) をサポートするかどうかを設定します。

- Yes (初期値)
サポートします。
- No
サポートしません。

Enable PPR

Parallel Protocol Request(PPR) transfer をサポートするかどうかを設定します。

- Yes (初期値)
サポートします。
- No
サポートしません。

Enable Device

当該 ID に接続された SCSI デバイスを有効にするかどうかを設定します。

- Yes (初期値)
SCSI デバイスを有効にします。
- No
SCSI デバイスを無視します。

Negotiate Wide

16 bit バス幅の Wide SCSI 転送を有効にするかどうかを設定します。

- Yes (初期値)
有効にします。
- No
無効にします。

Negotiate Sync

同期転送を行うかどうかを設定します。

- Yes (初期値)
行います。
- No
行いません。

Tagged Queuing

タグ付きコマンドキューをサポートするかどうかを設定します。

- Yes (初期値)
サポートします。
- No
サポートしません。

Sync Offset

REQ の最大数を設定します。

- 00 / 02 / 04 / 06 / 08 / 10 / 12 / 14 / 16 / 18 / 20 / 22
/ 24 (初期値)

Sync Period

REQ と ACK の最小間隔を設定します。

- Ultra3 9=160MB/s (初期値)
- Ultra3 10=80MB/s
- Ultra 12=40MB/s
- Fast 25=20MB/s
- 40=12.5MB/s

Exec Throttle

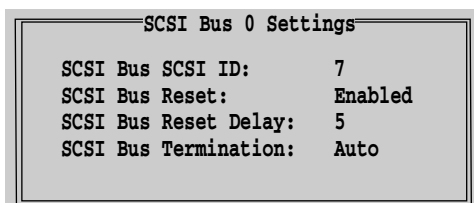
1つのポートあたりの最大実行コマンド数を設定します。

- 1 / 4 / 8 / 16 (初期値) / 32 / 64 / 128 / 255

SCSI Bus Settings

SCSI バスに関する設定を行います。

SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと、以下のサブメニューの画面が表示されます。



SCSI Bus SCSI ID

ホストアダプタの SCSI ID を設定します。通常は初期値の 7 を使用します。

- 0 / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 (初期値) / 8 / 9 / 10 / 11 / 12 / 13 / 14 / 15

SCSI Bus Reset

起動時、SCSI バスをリセットするかどうかを設定します。

- Enabled (初期値)
リセットします。
- Disabled
リセットしません。

SCSI Bus Reset Delay

SCSI バスのリセット後、SCSI バスを有効にするまでの時間 (秒) を設定します。

- 0 / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 (初期値) / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11 / 12 / 13 / 14 / 15

SCSI Bus Termination

SCSI バスのターミネーションを有効にするかどうかを設定します。

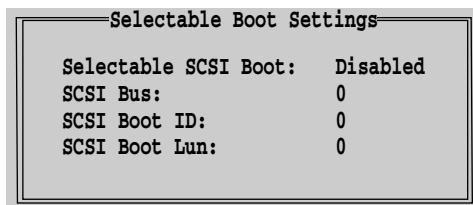
- Auto
自動的にターミネーションの設定を行います。
- High only
ハイターミネーションのみ有効にします。
- Disabled
ターミネーションを無効にします。
- Enabled
ターミネーションを有効にします。

Autoconfigure SCSI Devices

接続されている SCSI デバイスの設定情報をスキャンしたあと、設定を行います。SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと、SCSI デバイスの現在の設定が読み込まれ、「SCSI Bus x Device Settings」サブメニューの画面に表示されます。設定項目の詳細については、「● SCSI Device Settings」(→ 124 ページ)を参照してください。

Selectable Boot Settings

ブートする SCSI デバイスに関する設定を行います。



Selectable SCSI Boot

ブートする SCSI デバイスの設定を有効にするかどうかを設定します。

- No (初期値)
無効にします。
- Yes
有効にします。

SCSI Bus

ブートする SCSI デバイスの SCSI バスを選択します。

- 0 (初期値)
- 1

SCSI Boot ID

ブートする SCSI デバイスの SCSI ID を選択します。

- 0 (初期値) / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11 / 12 / 13 / 14 / 15

SCSI Boot Lun

「SCSI Boot ID」で選択した SCSI ID の LUN を選択します。

- 0 (初期値) / 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8 / 9 / 10 / 11
/ 12 / 13 / 14 / 15

Restore Default Adapter Settings

ホストアダプタに関する設定値を、初期値に戻して保存します。

「Adapter Defaults Restored」と表示され、何かキーを押すと設定値が初期値に戻り、保存されます。

Raw Nvram Data

ホストアダプタのNVRAM(Nonvolatile Random Memory)の内容を16進表示します。

Selecetd Adapter	
Adapter Type	I/O Address
QLA12160 Ultra 3	9000

Raw Nvram Data 00 thru FF Hex																
Byte Offset	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F
00	49	53	50	20	01	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00	00
10	44	0F	00	00	01	00	00	00	27	05	00	00	3A	00	FA	00
20	00	01	00	00	00	00	00	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
30	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	88
40	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
50	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
60	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
70	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
80	92	00	FD	10	09	38	92	00	27	05	00	00	3A	00	FA	00
90	00	01	00	00	00	00	00	00	FD	10	09	38	92	00	FD	18
A0	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
B0	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
C0	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10
D0	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00
E0	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38	92	00	FD	10	09	38
F0	92	00	FD	10	09	38	92	00	00	00	77	10	07	00	FA	00

<Esc> to exit

Scan SCSI Bus メニュー

SCSI バスをスキャンして、接続されているすべての SCSI デバイスを表示します。
SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと、以下が表示されます。

Scan SCSI Bus 0			
ID	Uendor	Product	Rev
0	No device present		
1	No device present		
2	No device present		
3	No device present		
4	No device present		
5	No device present		
6	No device present		
7	QLogic	SCSI Host Adapter	
8	No device present		
9	No device present		
10	No device present		
11	No device present		
12	No device present		
13	No device present		
14	No device present		
15	No device present		

SCSI Disk Utility メニュー

SCSI デバイスに使用するユーティリティを設定します。
SCSI バスを選択して [Enter] キーを押すと、以下のサブメニューが表示されます。

Scan SCSI Bus 0			
ID	Uendor	Product	Rev
0	No device present		
1	No device present		
2	No device present		
3	No device present		
4	No device present		
5	No device present		
6	No device present		
7	QLogic	SCSI Host Adapter	
8	No device present		
9	No device present		
10	No device present		
11	No device present		
12	No device present		
13	No device present		
14	No device present		
15	No device present		

SCSI ID を選択して [Enter] キーを押すと、ローレベルフォーマットおよびベリファイが行われます。

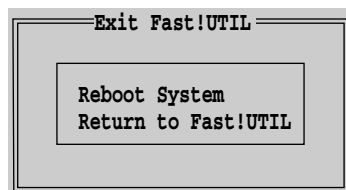
- Low-level Format
デバイスの物理フォーマットを行います。
- Verify Disk Media
媒体の欠陥をチェックします。
- Select Different Disk
SCSI Disk Utility の画面に戻ります。

Select Host Adapter メニュー

ホストアダプタが表示されます。

Exit Fast!UTIL メニュー

Fast!UTIL ユーティリティを終了します。



「Reboot System」を選択して [Enter] キーを押すと、Fast!UTIL ユーティリティが終了します。

「Return to Fast!UTIL」を選択して [Enter] キーを押すと、Main メニューに戻ります。

5 困ったときに

この章は、本ワークステーションを使用していて思うように動かないときなどに、どうすればよいかを説明しています。

Contents

1 エラーメッセージ	134
2 こんなときには	138
3 どうしても解決できないときは	140

1 エラーメッセージ

ここでは、本ワークステーションが表示するエラーメッセージの対処方法について説明しています。必要に応じてお読みください。

ビープ音をともなうエラー

本ワークステーションの起動時にビープ音が鳴った場合、ワークステーション本体が故障している可能性があります。この場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。

ビープ音が鳴る順序	エラー	意味と対処方法
Long-Short-Short	BIOS cannot initialize the Video Screen.	グラフィックスカードの初期化（認識）に失敗しました。 グラフィックスカードが正しく取り付けられているか確認してください。 正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
Long (repeated)	DRAM Error has occurred.	メモリにエラーが発生しました。 メモリが正しく取り付けられているか確認してください。 正しく取り付けられていても同じビープ音が鳴る場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。

エラーメッセージ

エラーメッセージが表示された場合は、エラーメッセージを確認し、次の処置を行ってください。

- CMOS Setup ユーティリティを実行する
BIOS に関するエラーメッセージが表示された場合は、CMOS Setup ユーティリティを再実行してください。
- 内蔵オプションの取り付けを確認する
オプションの拡張カードなどを取り付けているときは、それらが正しく取り付けられているか確認してください。また、カードの割り込みレベルなど正しく設定されているかどうかも確認してください。このとき、拡張カードに添付のマニュアルや、ユーティリティソフトがある場合は、それらのマニュアルも併せて参照してください。

上記の処置を実施しても、まだエラーメッセージが発生する場合は、本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員、または担当保守員へ連絡してください。

次に、エラーメッセージを示します。

エラーメッセージ	意味と対処方法
Floppy disk(s) fail	フロッピードライブに、POST ディスクテストでエラーが発生しました。 BIOS 設定で、フロッピーディスクドライブが正しく設定されているか、またはフロッピーディスクドライブが正しく接続されているかを確認してください。 正しく設定または接続されていても同じメッセージが表示される場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
Non-System disk or disk error. Replace and press any key when ready	ドライブから OS を読み込むことができません。 起動可能なフロッピーディスクまたはハードディスクが正しくセットされているか、または BIOS 設定で正しく設定されているか確認してください。
DISK BOOT FAILURE, INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER.	ドライブから OS を読み込むことができません。 起動可能なフロッピーディスクまたはハードディスクが正しくセットされているか、または BIOS で正しく設定されているか確認してください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードが接続されていないか、故障していません。 キーボードが正しく接続されているか確認してください。正しく接続されていてもエラーメッセージが表示される場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。
Warning!! Your Computer Chassis has been opened.	以前にシャーシを開けられた形跡があります。または、シャーシの開閉作業を行ったあと、シャーシ開放警告情報を解除していないときに発生します。 BIOS 設定の「Security Features」-「Clear Chassis Intrusion」を「Yes」に変更して装置を再起動してください。

エラーメッセージ	意味と対処方法
Chassis opened.	<p>シャーシが開いています。シャーシをしっかりと閉じてください。</p> <p>シャーシを閉じたあとに、BIOS 設定の「Security Features」-「Clear Chassis Intrusion」を「Yes」に変更して装置を再起動してください。</p>
Event log Full	<p>エラー等のイベント情報を記録する領域が不足しています。記録されているイベント情報を消去してください。</p> <p>BIOS 設定の「Security Features」-「Clear All DMI Event log」を「Yes」に変更して装置を再起動してください。</p>
+3.3V is out of range.	<p>+3.3V スタンバイ電圧が異常です。</p> <p>担当営業員、または担当保守員に連絡してください。</p>
+5V is out of range.	<p>+5V スタンバイ電圧が異常です。</p> <p>担当営業員、または担当保守員に連絡してください。</p>
+12V is out of range.	<p>+12V スタンバイ電圧が異常です。</p> <p>担当営業員、または担当保守員に連絡してください。</p>
-12V is out of range.	<p>-12V スタンバイ電圧が異常です。</p> <p>担当営業員、または担当保守員に連絡してください。</p>
5Vsb is out of range.	<p>5V スタンバイ電圧が異常です。</p> <p>担当営業員、または担当保守員に連絡してください。</p>
CPUx temp exceeded the high limitation continually.	<p>CPUx の温度が警告温度を超えています。</p> <p>電源を切断し、本書の「1 はじめに」の「2 設置」(29 ページ)を参照して設置環境を見直してください。</p> <p>正しい設定環境でご使用の上で、同じエラーメッセージが表示される場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。</p>
CPUx FAN isn't work.	<p>CPUx の FAN が正しく動作していません。</p> <p>電源を切断し、ケーブル等が CPUx FAN に接触していないか確認してください。</p> <p>特に問題がないにもかかわらず、同じエラーメッセージが表示される場合は、担当営業員、または担当保守員に連絡してください。</p>

エラーメッセージ	意味と対処方法
CMOS checksum error - Defaults loaded.	<p>CMOS のチェックサムデータが正しくありません。BIOS 設定の「Load Optimized Defaults」を実行してください。</p> <p>その後も連続して同じエラーメッセージが表示される場合は、バッテリーの交換が必要です。担当営業員、または担当保守員に連絡してください。</p>
Fond DMI Event Log, Please Enter setuo to check.	<p>未読のイベントログがあります。BIOS 設定の「Security Features」-「View DMI Event LOG」を選択し、Event Log の内容を確認してください。</p>

2 こんなときには

ここでは、各機能に関するトラブル情報について記載しています。必要に応じてお読みください。

- **アクセス表示ランプがつかない**
本ワークステーションが故障している可能性があります。担当営業員または担当保守員にご相談ください。
- **画面に何も表示されない**
次のことを確認してください。
 - ディスプレイの電源が切れていませんか。
電源スイッチを押してください。
 - 省電力モードが設定されていませんか。
マウスを動かすか、どれかキーを押してください。
 - ディスプレイのケーブルは、正しく接続されていますか。「第1章はじめに」の「3 接続」(→ 32 ページ)を参照してディスプレイのケーブルを正しく接続してください。
 - ディスプレイの電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。「第1章はじめに」の「3 接続」(→ 32 ページ)を参照して電源ケーブルを正しく接続してください。



ケーブルは、必ず電源を切ってから接続し直してください。
感電の原因となります。

- ディスプレイのブライトネス/コントラストボリュームは、正しく調節されていますか。ブライトネス/コントラストボリュームで画面を調節してください。
- **画面が揺れる**
近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありますか。強い磁界が発生するものは、ディスプレイから離して置いてください。
- **画面の両サイドが欠ける**
使用するディスプレイの調整ボタンで、水平画面サイズを調整してください。
- **フロッピーディスクの読み込み、書き込みができない**
次のことを確認してください。
 - フロッピーディスクドライブのヘッドが汚れていませんか。クリーニングフロッピーディスクでヘッドの汚れを落としてください。「付録5 お手入れ」の「フロッピーディスクドライブのクリーニング」(→ 157 ページ)参照。
 - フロッピーディスクが書き込み禁止になっていませんか。フロッピーディスクのライトプロテクトノッチを書き込み可能な位置にしてください。

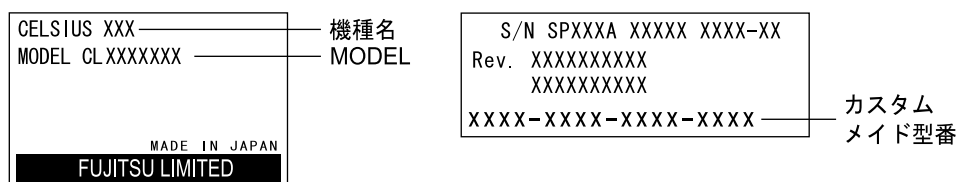
- 電源が入らない、前面にある電源ランプがつかない
次のことを確認してください。
 - 電源ケーブルは、コンセントに接続されていますか。確認してください。
- CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブから、データの読み込みができない。
次のことを確認してください。
 - CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW（以下まとめて媒体とします）をトレイの中央に正しくセットしていますか。媒体のレーベル面を上にして、セットし直してください。
 - 媒体が表裏逆に入っていませんか。媒体のレーベル面を上にして、正しくセットしてください。
 - 媒体が汚れていたり、結露または水滴がついていたりしていませんか。乾いた柔らかい布で中央から外側に向かって拭いてください。
 - 媒体に傷がついていたり、極端にそっていたりしていませんか。そのような場合には、媒体を交換してください。
 - 規格外の媒体を使用していませんか。規格に合った媒体を使用してください。
- キーボードから入力した文字が表示されない
キーボードは正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(→ 32 ページ) を参照し、確認してください。
- マウスカーソルが動かない
マウスは正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(→ 32 ページ) を参照し、確認してください。
- マウスの中ボタンが動作しない
標準添付されている3ボタンマウスの中ボタンは、3ボタン対応アプリケーションを使用しているときのみ動作します。通常は中ボタンは機能しません。ご了承ください。
- ネットワークに接続できない
次のことを確認してください。
 - ネットワークケーブルが正しく接続されていますか。「第1章 はじめに」の「3 接続」(→ 32 ページ) を参照し、確認してください。
 - 100Mbps で通信している場合、カテゴリ5のUTPケーブルをお使いですか。カテゴリ5のUTPケーブルをお使いください。
 - ハブユニットのACT/LNKランプが点灯していますか。ハブユニットを確認してください。
 - TCP/IPプロトコルをお使いの場合、Pingコマンドを使って接続できているか確認してください。

3 どうしても解決できないときは

どうしても原因がわからないときや、元の状態に戻せないときは、担当営業員または担当保守員へ連絡してください。なお、お問い合わせ前に機種名 / MODEL / カスタムメイド型番を確認してください。

機種名 / MODEL / カスタムメイド型番の表記場所

ワークステーション本体背面のラベルに記載されています。



お問い合わせ前の確認シート

お客様の環境

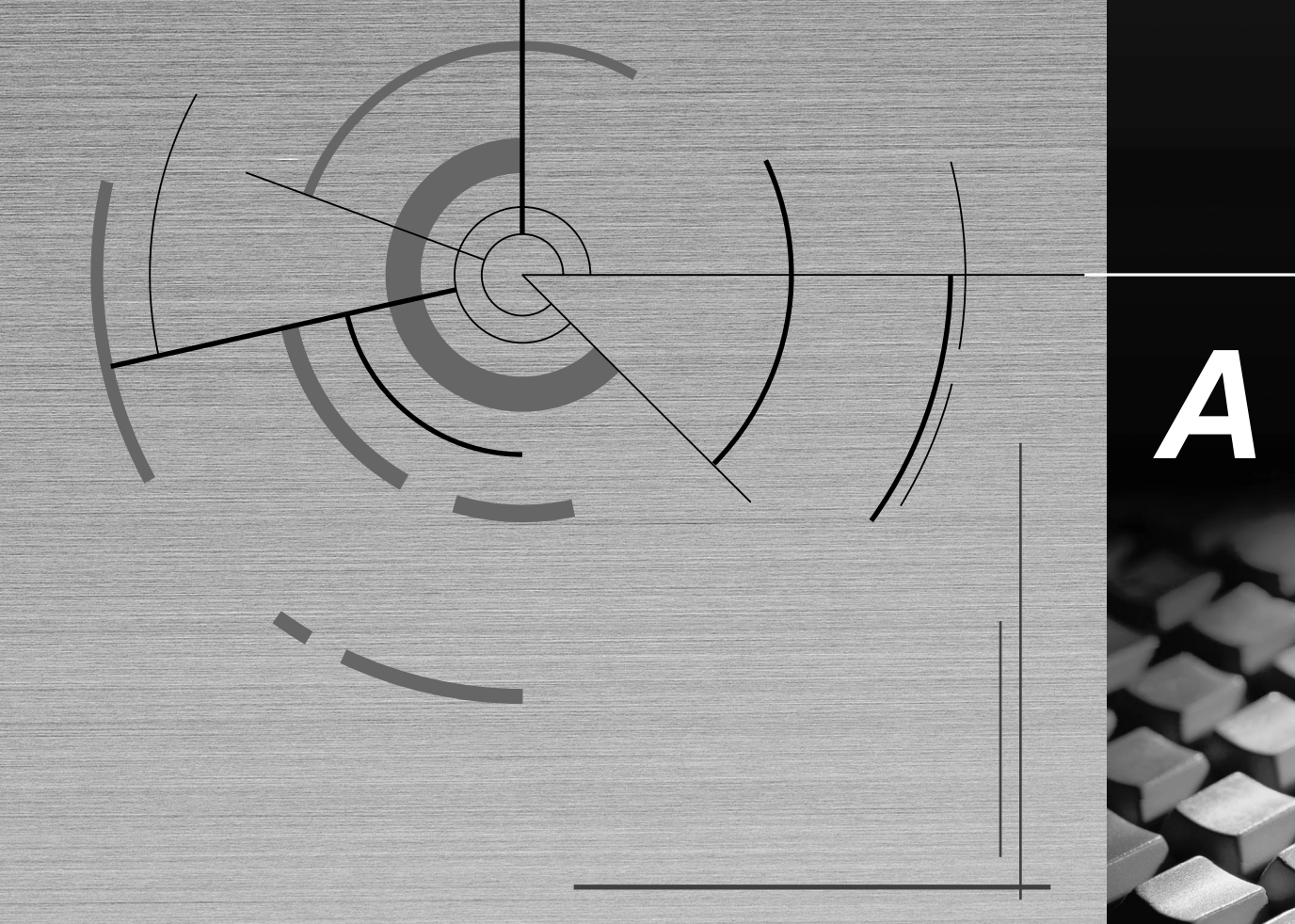
お使いのワークステーションの機種は？	機種名：CELSIUS	MODEL：	
	カスタムメイド型番：		
	購入日：		
メモリの容量は？	本体標準：	MB	
	増設：	MB	[メーカー：] [型番：]
増設した周辺機器は？	種類	型番号	メーカー
お使いのソフトウェアは？	ソフトウェア名	バージョン/レベル	メーカー

トラブル状況

トラブルの内容は？	
何をしているときに起こりましたか？	
エラーメッセージは表示されましたか？ その内容は何ですか？	
以前は問題なく動作していましたか？	<ul style="list-style-type: none"> ・以前は動作した ・今回初めて試した ・以前から動作しない

5

困ったときに



A

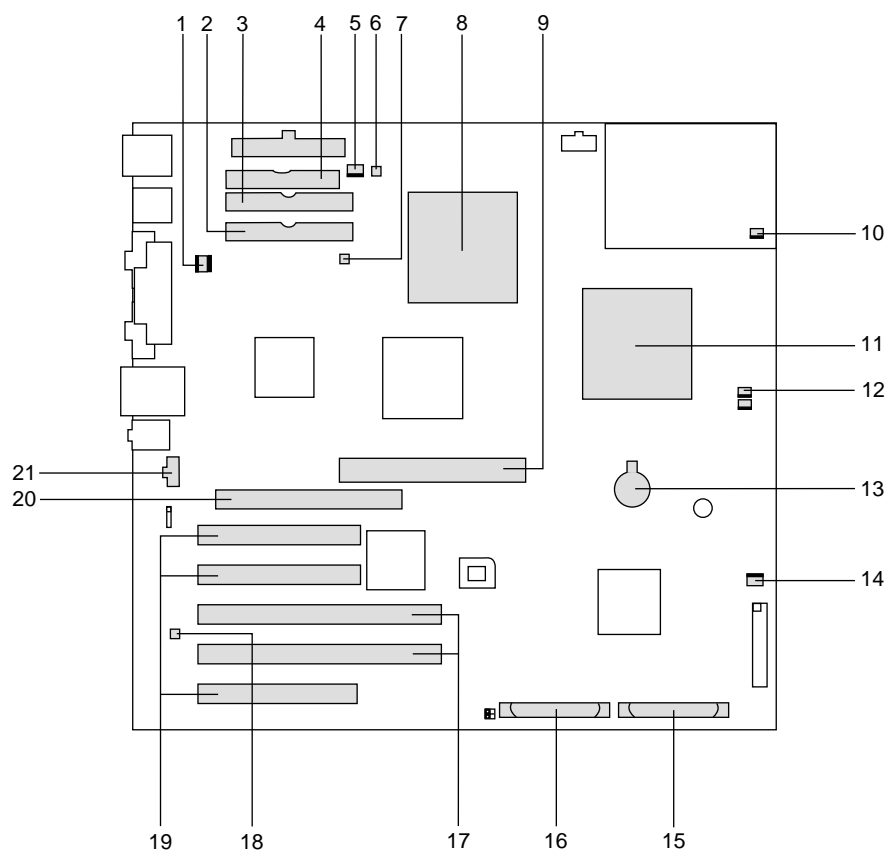
付録

Contents

1 システムボード	144
2 リソース一覧	146
3 ドライブの設定	147
4 コネクタ仕様	149
5 お手入れ	155
6 保守修理サービスのご案内	158
7 保証について	159
8 その他の注意事項	160

1 システムボード

システムボード



- 1 ファンコネクタ (プロセッサ 1 用)
- 2 プライマリ IDE コネクタ
プライマリ IDE 用のケーブルを接続します。
- 3 セカンダリ IDE コネクタ
セカンダリ IDE 用のケーブルを接続します。
- 4 フロッピーコネクタ
フロッピーディスクドライブのケーブルを接続します。
- 5 ファンコネクタ 1 (背面 120mm FAN 用)
- 6 温度センサ 2

BIOS 設定の「PC Health Status」メニューの「Current Remote Temp 2」に対応します。

7 温度センサ 1

BIOS 設定の「PC Health Status」メニューの「Current Remote Temp 1」に対応します。

8 プロセッサ 1 用ソケット

9 メモリ拡張ボードコネクタ

10 ファンコネクタ (プロセッサ 0 用)

11 プロセッサ 0 用ソケット

12 ファンコネクタ 2 (前面 80mm FAN 用)

上のファンコネクタのみ有効です。下のファンコネクタには接続しないでください。

13 内蔵バッテリー

本ワークステーションのセットアップ設定値を保存するためのバッテリーです。標準の使用状態で約 5 年間お使いになれます。

14 ファンコネクタ 3 (前面 120mm FAN 用)

15 Ultra 160 Wide SCSI コネクタ B

16 Ultra 160 Wide SCSI コネクタ A

17 64-bit PCI スロット

64-bit PCI カードを取り付けます。

18 温度センサ 3

BIOS 設定の「PC Health Status」メニューの「Current Remote Temp 3」に対応します。

19 32-bit PCI スロット

32-bit PCI カードを取り付けます。

20 AGP Pro スロット

ビデオカードを取り付けます。

21 CD-IN コネクタ

CD-ROM ドライブのオーディオケーブルを接続します。



ポイント

本体背面にスロット番号が刻印されていますが、本ハードウェアガイドに記載している AGP/PCI スロット番号とは異なりますので、ご注意ください。

2 リソース一覧

本ワークステーションの出荷時の割り込みレベル（IRQ）、DMA チャンネル、I/O ポートアドレスの使用状況は次の通りです。

IRQ	使用状況
0	システムタイマ
1	キーボード
2	IRQ8 ~ 15 をカスケード接続
3	シリアルポート 2
4	シリアルポート 1
5	
6	フロッピーディスクコントローラ
7	パラレルポート
8	リアルタイムクロック
9	
10	
11	
12	マウス
13	数値演算コプロセッサ
14	プライマリ IDE
15	セカンダリ IDE

※：PCI デバイス（ビデオカード、LAN、SCSI、サウンド等）

割り込みレベルは自動割り当てのため、カスタムメイドオプションの選択によって割り当てが異なります。

DMA	使用状況
0	空き
1	空き
2	フロッピーディスクコントローラ
3	パラレルポート
4	DMA0 ~ 3 をカスケード接続
5	空き
6	空き
7	空き

I/O ポートアドレス	使用状況
03F2h ~ 03F5h,03F7h	フロッピーディスクコントローラ
0378h ~ 037Fh,0778h ~ 077Fh	パラレルポート
03F8h ~ 03FFh	シリアルポート 1

3 ドライブの設定

ハードディスクドライブの設定

- IDEハードディスクの設定
以下の表を参照して、「マスタ」、「スレーブ」、「ケーブルセレクト」の設定を正しく行ってください。
設定ピンの位置および設定方法は、オプション添付のマニュアルまたはハードディスクに貼られているラベルの説明を参照してください。

	1台目	2台目
1個搭載時	マスタ	
2個搭載時	マスタ	スレーブ

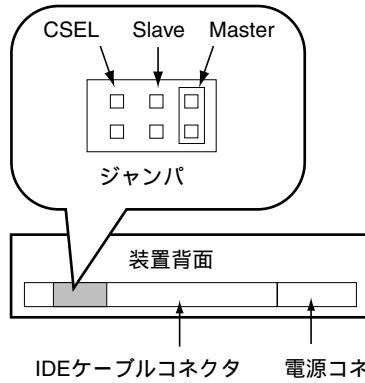
- U160W-SCSIハードディスクの設定
以下の表を参照して、SCSI-IDの設定を正しく行ってください。
設定ピンの位置および設定方法は、オプション添付のマニュアルもしくは、ハードディスクに貼られているラベルの説明を参照してください。
ショートは、ショートピンを差し込みます。
オープンは、ショートピンを差し込みません。

ドライブ番号	設定ピン			
	JP4 (ID3)	JP3 (ID2)	JP2 (ID1)	JP1 (ID0)
#0	オープン	オープン	オープン	オープン
#1	オープン	オープン	オープン	ショート
#2	オープン	オープン	ショート	オープン
#3	オープン	オープン	ショート	ショート
#4	オープン	ショート	オープン	オープン
#5	オープン	ショート	オープン	ショート
#6	オープン	ショート	ショート	オープン
#7	オープン	ショート	ショート	ショート
#8	ショート	オープン	オープン	オープン
#9	ショート	オープン	オープン	ショート
#10	ショート	オープン	ショート	オープン
#11	ショート	オープン	ショート	ショート
#12	ショート	ショート	オープン	オープン
#13	ショート	ショート	オープン	ショート
#14	ショート	ショート	ショート	オープン
#15	ショート	ショート	ショート	ショート

- SCSI-IDは、#1から#15（#7を除く）の範囲で設定してください。
- ドライブ番号は、他の装置と重ならないように設定してください。
- SCSI-ID設定ピン以外のピンには触らないでください。

CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW ドライブの設定

ショートは、ショートピンを差し込みます。
オープンは、ショートピンを差し込みません。



Master (マスタ)	ショート (出荷時)
Slave (スレーブ)	オープン
CSEL (ケーブルセレクト)	オープン

その他のドライブの設定

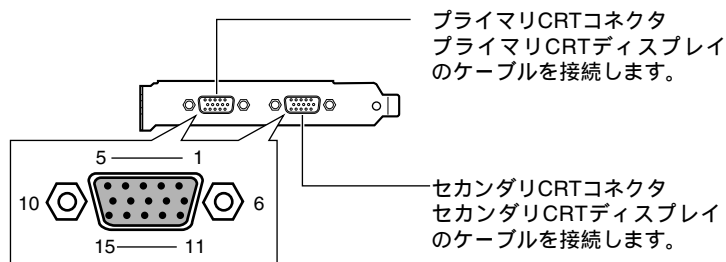
その他のドライブの設定は、オプションに添付されているマニュアルを参照してください。

4 コネクタ仕様

各コネクタのピンの配列および信号名は、次のとおりです。

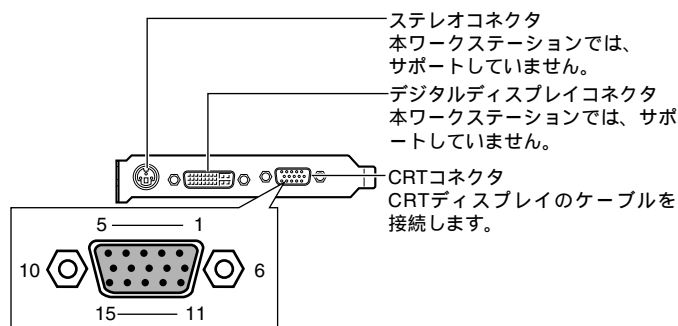
ディスプレイコネクタ

- Matrox Millennium G450



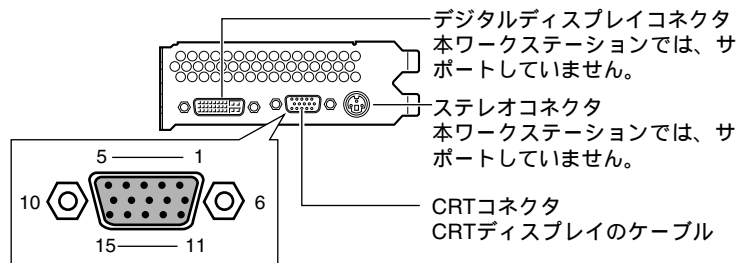
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

- CELSIUS GL2



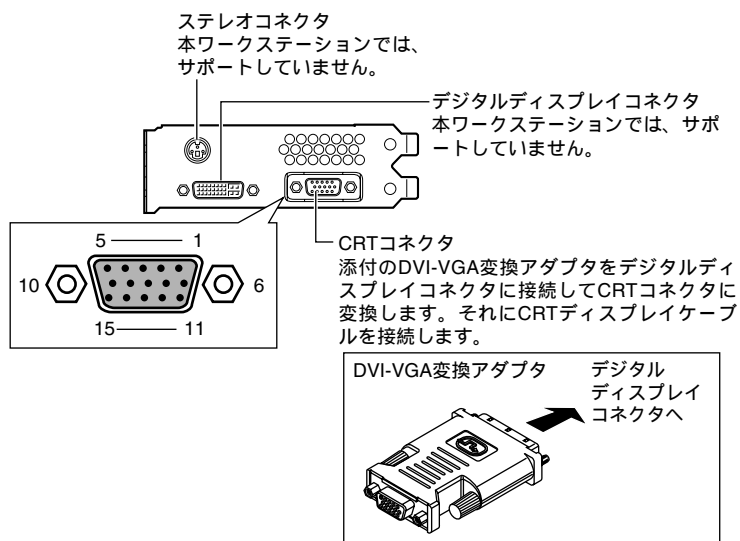
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

- CELSIUS Wildcat II 5110



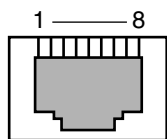
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	ID2	入出力	データ
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	ID0	入出力	データ
12	ID1	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSYNC	出力	垂直同期信号
15	ID3	入出力	データ

- CELSIUS GL4



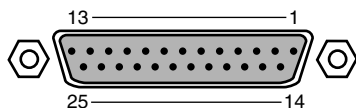
ピン No.	信号名	方向	内容
1	RED	出力	赤出力
2	GREEN	出力	緑出力
3	BLUE	出力	青出力
4	NC	-	未接続
5 ~ 8	GND	-	グラウンド
9	+5V	-	+5V
10	GND	-	グラウンド
11	NC	-	未接続
12	SDA	入出力	データ
13	HSYNC	出力	水平同期信号
14	VSNC	出力	垂直同期信号
15	SCL	入出力	データクロック

LAN コネクタ



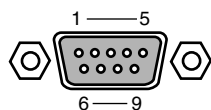
ピン No.	信号名	方向	内容
1	TD+	出力	送信データ+
2	TD-	出力	送信データ-
3	RD+	入力	受信データ+
4	NC	-	未接続
5	NC	-	未接続
6	RD-	入力	受信データ-
7	NC	-	未接続
8	NC	-	未接続

パラレルコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	STROBE	入出力	ストロブ
2	DATA0	入出力	データ0
3	DATA1	入出力	データ1
4	DATA2	入出力	データ2
5	DATA3	入出力	データ3
6	DATA4	入出力	データ4
7	DATA5	入出力	データ5
8	DATA6	入出力	データ6
9	DATA7	入出力	データ7
10	ACK	入力	アクノリッジ
11	BUSY	入力	ビジー
12	PE	入力	用紙切れ
13	SELECT	入力	セレクト
14	AUTOFD	出力	自動送り
15	ERROR	入力	エラー
16	INIT	出力	初期化
17	SLCTIN	出力	セレクト
18 ~ 25	GND	-	グラウンド

シリアルコネクタ



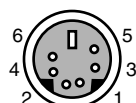
ピン No.	信号名	方向	内容
1	CD	入力	キャリア検出
2	RD	入力	受信データ
3	TD	出力	送信データ
4	DTR	出力	データ端末レディ
5	GND	-	グラウンド
6	DSR	入力	データセットレディ
7	RTS	出力	送信要求
8	CTS	入力	送信可
9	RI	入力	リングインジケート

マウスコネクタ



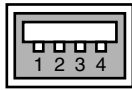
ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

キーボードコネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	DATA	入出力	データ
2	NC	-	未接続
3	GND	-	グラウンド
4	VCC	-	電源
5	CLK	入出力	クロック
6	NC	-	未接続

USB コネクタ



ピン No.	信号名	方向	内容
1	VCC	-	ケーブル・電源
2	-DATA	入出力	- データ信号
3	+DATA	入出力	+ データ信号
4	GND	-	ケーブル・グラウンド

5 お手入れ

本ワークステーションのお手入れのしかたは、次のとおりです。



お手入れをする場合は、ワークステーション本体および接続されている装置の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いたあとに行ってください。
感電の原因となります。

ワークステーション本体のお手入れ

柔らかい布でから拭きします。から拭きで落ちない汚れは、中性洗剤をしみ込ませ固くしぼった布で拭きます。汚れが落ちたら、水に浸して固くしぼった布で、中性洗剤を拭き取ります。拭き取りのときは、ワークステーション本体に水が入らないようにご注意ください。

通風孔にほこりがたまらないように、掃除機でほこりを吸引するなど、定期的に清掃してください。

キーボードのお手入れ

柔らかい布でから拭きします。

CD-ROM、DVD-ROM、CD-R/RW のお手入れ

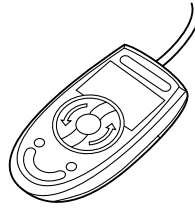
柔らかい布で、中央から外側に向かってから拭きします。汚れがひどいときは、柔らかい布を薄い石けん水に浸し、固くしぼって汚れを拭き取り、その後柔らかい布でから拭きしてください。

マウスのお手入れ

表面の汚れは、柔らかい布でから拭きします。マウスのボールがスムーズに回転しないときは、ボールを取り外してクリーニングします。ボールのクリーニング方法は、次のとおりです。

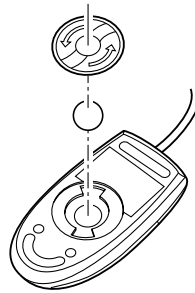
1 マウスの裏ボタンを取り外します。

マウス底面にある裏ボタンを、矢印の方向に回して取り外します。



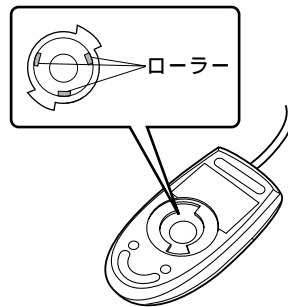
2 ボールを取り出して、水洗いします。

マウスをひっくり返し、ボールを取り出します。その後、ボールを水洗いします。



3 マウス内部をクリーニングします。

マウス内部、ローラー、および裏ボタンを、水に浸して固くしぼった布で拭きます。



フロッピーディスクドライブのクリーニング

フロッピーディスクドライブは、長い間使用していると、ヘッド（データを読み書きする部品）が汚れてきます。ヘッドが汚れると、フロッピーディスクに記録したデータを正常に読み書きできなくなります。別売（サブライ品）のクリーニングフロッピーを使い、3カ月に1回程度の割合でクリーニングしてください。

品名	商品番号
クリーニングフロッピーマイクロ	0212116

フロッピーディスクドライブのクリーニング方法

- 1 フロッピーディスクドライブにクリーニングフロッピーをセットします。
- 2 Windows NT / Windows 2000 のコマンドプロンプトから dir などのディスクにアクセスするコマンドを実行します。
例：次のように入力し、【Enter】キーを押します。

```
dir a:
```

6 保守修理サービスのご案内

弊社では、保守修理サービスとして、次の「契約サービス」「スポット保守サービス」を用意しております。

お客様のご希望、ご利用状況に合わせたサービスをお選びのうえ、担当営業員または担当保守員にお申し込みください。

契約サービス

お客様と契約に基づき、装置管理を行います。

保守サービス料金は月額定期保守料をお客様に負担していただきます。

料金は定額ですので、お客様の予算管理も容易です。

定期保守サービス

トラブルを未然に防止するとともに、装置の機能維持を行うため、定期的に予防点検、整備調整作業を行います。万一の障害発生時には保守員がお客様に伺い、保守修理作業を実施いたします。

業務にご利用の場合などで、装置の使用頻度の高いお客様に最適なサービスです。

定額訪問修理サービス

万一のトラブルの際に、保守員がお客様に伺い、修理作業を実施いたします。

定額点検サービス

トラブルを未然に防止するための定期点検のみを実施する契約サービスです。

点検時の部品の交換、障害発生時の保守作業については別途有償とさせていただきます。

スポット保守サービス

必要に応じてその都度利用していただく保守サービスです。

保守サービス料金は、サービス実施の都度、お客様に負担していただきます。

スポット訪問修理サービス

お客様のご依頼により、保守員が修理にお伺いします。

修理料金はその都度ご精算いただきます。なお、保証書の無料修理規定による保証期間中の修理費用は無償ですが、訪問に必要な費用は別途有償となります。

アフターサービスなどについて、ご質問などがございましたら、担当営業員または担当保守員へお問い合わせください。

7 保証について

本ワークステーションの保証について説明します。

- 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
- 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
- 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
- 修理を依頼されるときには、必ず保証書をご用意ください。
- 本ワークステーションの保守部品の供給期間は、製造終了後 6 年間とさせていただきます。
- 部品の寿命による故障が発生する前に、予防交換を行う必要があります。交換周期は部品によって異なりますが、ハードディスクでは 20,000 時間の通電が目安となります。

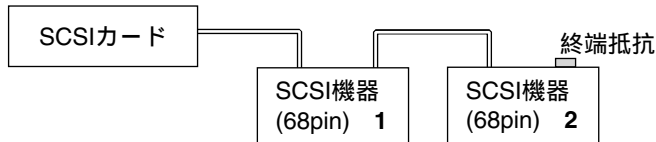
8 その他の注意事項

SCSI カード追加機構を使用する場合の注意事項

- SCSI カードを使用する場合は内蔵 SCSI 装置と外付 SCSI 装置は同時に接続できませんのでご注意ください。
内蔵 SCSI 装置、外付 SCSI 装置の双方を使用される場合は、異なる SCSI カードに接続してください。
- 外付 SCSI 装置を接続する場合は 2 台までしか接続できません。外付 SCSI 装置を 3 台以上接続する場合は複数の SCSI カードに分けて接続してください。
なお、外付 SCSI 装置を接続する場合に使用するケーブルは接続装置によって異なります。以下に示すものを使用してください。

[68pin(Wide)SCSI 装置を接続する場合]

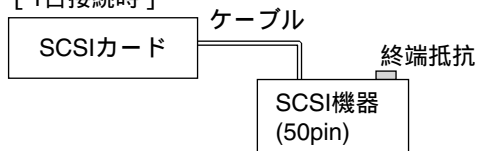
68pin(Wide)SCSI 装置を接続される場合、SCSI 装置に添付されております SCSI ケーブル及び終端抵抗を使用して接続してください。
この場合、50pin (Narrow) SCSI 装置は接続できません。



[50pin(Narrow)SCSI 装置を接続する場合]

50pin(Narrow)SCSI はコネクタの形状として、フルピッチとハーフピッチの2種類があります。接続される場合、以下に示すものを選択してください。

[1台接続時]



ケーブル	SCSI 装置	終端抵抗
GP5-832	フル	FMV-692
GP5-833	ハーフ	FMV-695

[2台接続時]



ケーブル 1	SCSI 機器 1	ケーブル 2	SCSI 機器 2	終端抵抗
GP5-832	フル	FMB-CBL831	フル	FMV-692
		FMS-834	ハーフ	FMV-695
GP5-833	ハーフ	FMS-834	フル	FMV-692
		FMV-CBL32	ハーフ	FMV-695

高性能無停電電源装置（Smart-UPS）のバッテリー

電源の投入／切断時間にかかわらず約2年経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。詳細につきましては、高性能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

索引

B

BIOS 設定 84

C

CD-R/RW ドライブ 44
CD-R/RW ドライブの設定 148
CD-ROM ドライブ 44
CD-ROM ドライブの設定 148
CMOS Setup ユーティリティ 84

D

DMA チャンネル 146
DVD-ROM ドライブ 44
DVD-ROM ドライブの設定 148

F

Fast!UTIL ユーティリティ 118

I

I/O ポートアドレス 146
IDE ハードディスクの設定 147
IRQ 146

L

LAN ケーブルの接続 34
LAN コネクタ 152

S

SCSI BIOS 設定 118
SCSI カード追加機構 160
SCSI ハードディスクの設定 147

U

USB コネクタ 154

え

エラーメッセージ 135

お

お手入れ 155

か

拡張カードの取り付け 69
拡張カードの取り外し 70

き

キーの役割 (CMOS Setup ユーティリティ)	86
キーの役割 (Fast!UTIL ユーティリティ)	119
キーボードコネクタ	153
キーボードの接続	33

け

契約サービス	158
--------	-----

こ

高性能無停電電源装置	161
------------	-----

さ

サイドカバーの取り付け	54
サイドカバーの取り外し	53
サイドディスクベイの取り付け	75
サイドディスクベイの取り外し	74
サイドディスクベイへのハードディスクドライブの取り付け	81

し

システムボード	144
受信障害防止	30
シリアルコネクタ	153

す

スポット保守サービス	158
------------	-----

せ

接続	32
設置	29

て

ディスプレイケーブルの接続	34
ディスプレイコネクタ	149
ディスプレイの電源ケーブルの接続	33
電源ケーブルの接続	34
電源スイッチ	37
電源の入れかた	36
電源の切りかた	38

と

トップカバーの取り付け	53
トップカバーの取り外し	52

は

ハードディスク	47
ハードディスクドライブのフロントディスクベイへの取り付け	80
パラレルコネクタ	152

ふ

ファイルベイからのドライブの取り外し	78
ファイルベイへのドライブの取り付け	76
プロセッサの取り付け	63
フロッピーディスク	42
フロントカバーの取り付け	56
フロントカバーの取り外し	55
フロントディスクベイの取り付け	74
フロントディスクベイの取り外し	73

ほ

保守修理サービス	158
保証	159

ま

マウスコネクタ	153
マウスの接続	33
マルチプロセッサカーネル	66

め

メモリ／C-RIMM の取り付け	61
メモリの取り付け／取り外し	57
メモリボードの取り付け	60
メモリボードの取り外し	59
メモリ／C-RIMM の取り外し	60

り

リソース	146
------------	-----

わ

ワークステーション本体前面の各部名称 ..	22
ワークステーション本体内部の各部名称 ..	26
ワークステーション本体の電源ケーブルの接続	35
ワークステーション本体背面の各部名称 ..	24
割り込みレベル	146

CELSIUS 670
ハードウェアガイド

P3F1-0930-01

発行日 2001年10月
発行責任 富士通株式会社
Printed in Japan

本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
無断転載を禁じます。
落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。